

特63-186



1200800265180



始



特63

186

增補第七版

野球

帝國大學運動會幹事
第一等學校審判官

中馬庚著

野球大家青井鉞男增補

大阪

前川文榮堂發行

理經

序言

一 昨年來野球ノ名都鄙ニ喧傳スルモ未タ其實ヲ知ラサル者多キヲ憾ミ不文ヲ顧ミスシテ此稿ヲ起セリ若シ序論ニ論スルカ如キ目的ヲ達スルノ一端ニ供スルヲ得バ著者ノ本望ナリ

一 野球ハ北米ノ國技ナルカ故ニ彼國ノ書ヲ參考スルヲ至當トスルカ如クナルモ昨年來橫濱外人ト仕合スルニ當リテ彼レノ爲ス所ヲ見ルニ彼我其特長ヲ異ニスルカ如シ故ニ本書ニハ一モ彼レノ著書ヲ參考セス數年前

ヨリ時々手記セルモノヲ第一高等學校ノ撰手諸氏ト商量シテ潤飾セシノミナリ

一 本書ノ成ルヤ第一高等學校野球部諸君爭フテ其所信ヲ記入セラレ大ニ本書ノ重キヲ成セリ悉ク姓名ヲ附シテ其厚意ヲ謝ス

一 本書所載ノ畫圖ハ第一高等學校野球部員上村行榮草鹿砥祐吉二氏眞寫ハ工科大學學生小平浪平氏ノ手ニ成リ悉ク第一高等學校野球場ニ於テ同校撰手練習ノ際ヲ寫影セル者ナリ茲ニ附記シテ其厚意ヲ謝ス

明治三十年五月十三日

著 者 識 　　ス

増補ニ就テ

一 本書ハ吾師中馬庚君非常ナル熱心ヲ以テ著述セラレタルモノニシテ已ニ充分野球ノ蘊奧ヲ盡シ居レバ予輩ノ如キ未熟者カコレヲ増補スルトハナト分ニ過タル事ナレトモ本書ガ第一版ヲ起シテヨリ已ニ數年ヲ經過シタルガ故ニ其後新ニ必要トナリタルモノ或ハ進歩シタルモノアリ今第七版ヲ發行スルニ當リコレヲ加テ増補トス

一 規則ニ就テハ實ニ能ク日本化シタルモノナルガ故ニ

之ニテ充分ナリ然レモ必要上二三ノ註ヲ加ヘ置タリ
 今日亞米利加邊ニテ行ハルモノハ大分ニコレトハ
 差異アルヲ以テコレヲ知ラント欲セバ宜シク美滿津
 商店發行ノ野球年報ノ附則ヲ見賜フベシ

明治三十四年十一月

増補者識ス

目次

總論

至自
一八一

序論

青年ト運動——校際仕合

野球ノ大要

八

此技ノ性質

二

特質——今日ニ行ヒ易キ所以

略史

至自
二八九

北米合衆國ニ於ケル略史

元

目二

本邦ニ於ケル略史 二六

目一

練習

自二九
至一七

一般心得 三一

何種ノ人カ最モ此技ニ適スルヤ

受け方 三四

受け方ノ三正式——其變式——Short Bound, Long Short Bound 及びしろノ受け方

投げ合 三五

投げ合ハ練習ノ基礎——其時季快味及ヒ仕合

受方の教育法 三六

のつく 三七

其利害——其快味及ヒ應用——のつく争奪ノ諸心得

投げ方 三七

上投ノ正式——距離ト目標——其練習法

魔球 三五

其説明——速度ニ關スル者——方向ニ關スル者八種

打ち方 三九

打手ノ覺悟——其困難——打ち方ノ正式及ビ變式——腕力可否論——打手ノ心得——Sacrifice Hit 各論——Bunt Hit ト Sacrifice Hit——如何ニセバ任意ノ方向ニ打テ得ベキ——のつくノ打ち方

Batting 四九

のつく 一一三

撰手各論

自一一八
至一九二

撰手ノ名稱及ヒ分類

目三

Battery 一三〇
 其覺悟

Battery ノ練習 一三三

Pitcher 一三四
 打手ニ對スル心得——走者ニ對スル心得——味方ニ對
 スル心得——Fielding——投球ノ秘密——魔球ノ利用
 ——打棒ノ進行ヲ見テ投球スル

Catcher 一五一
 其覺悟及ヒ心得——投手ヨリ捕手ヘノ要求

内野手 一六〇
 其困難及心得

Short Stop 一六四
 其困難及ヒ各心得

First Base 一六五

外野手

走者ナキ時ノ心得——受け方ノ各姿勢

Second Base 一七五
 Right Short Stop トシテノ任——Catcher ニ對スル心得
 ——Base Man トシテノ職

Third Base 一八二
 其困難及ヒ快味——投手ヨリ Base Man へノ要求

外野ノ快

Right Fielder 一八八
 其職責及ビ注意

Centre Fielder 一九一
 其職責

Left Fielder 一九一
 其職責

仕合

自一九三
至二四四

Captain ニ就テ 一九四
其練習——其職責

守 勢 二〇三

内野ノ連鎖 二〇三

仕合ニ關スル投ケ合ノ練習

挟ミ方 二〇七

撰手ノ心得 二二二

攻 勢 二二七

常ニ攻勢ヲ取レ

打ち方 二二九

各種ノ心得

走り方 二三三

其心得及ヒ目的——挟マレシ時ノ心得——送り方及ビ飛
ビ方

仕合ノ練習 二三六

打手ノ順序 二三九

Coaching ニ就テ 二四一

勝利ノ原因 二四七

撰手ノ自任——校友ノ後援

仕合ニ關スル撰手教育法 二四〇

審判官

自二四五
至二五七

其職權——判決ノ心得——審判官ノ困難——其注視スベ
キ點——其義務——其撰擇——如何ナルヲ完全ナル審判
官トスルカ

判定者へノ注意 二五

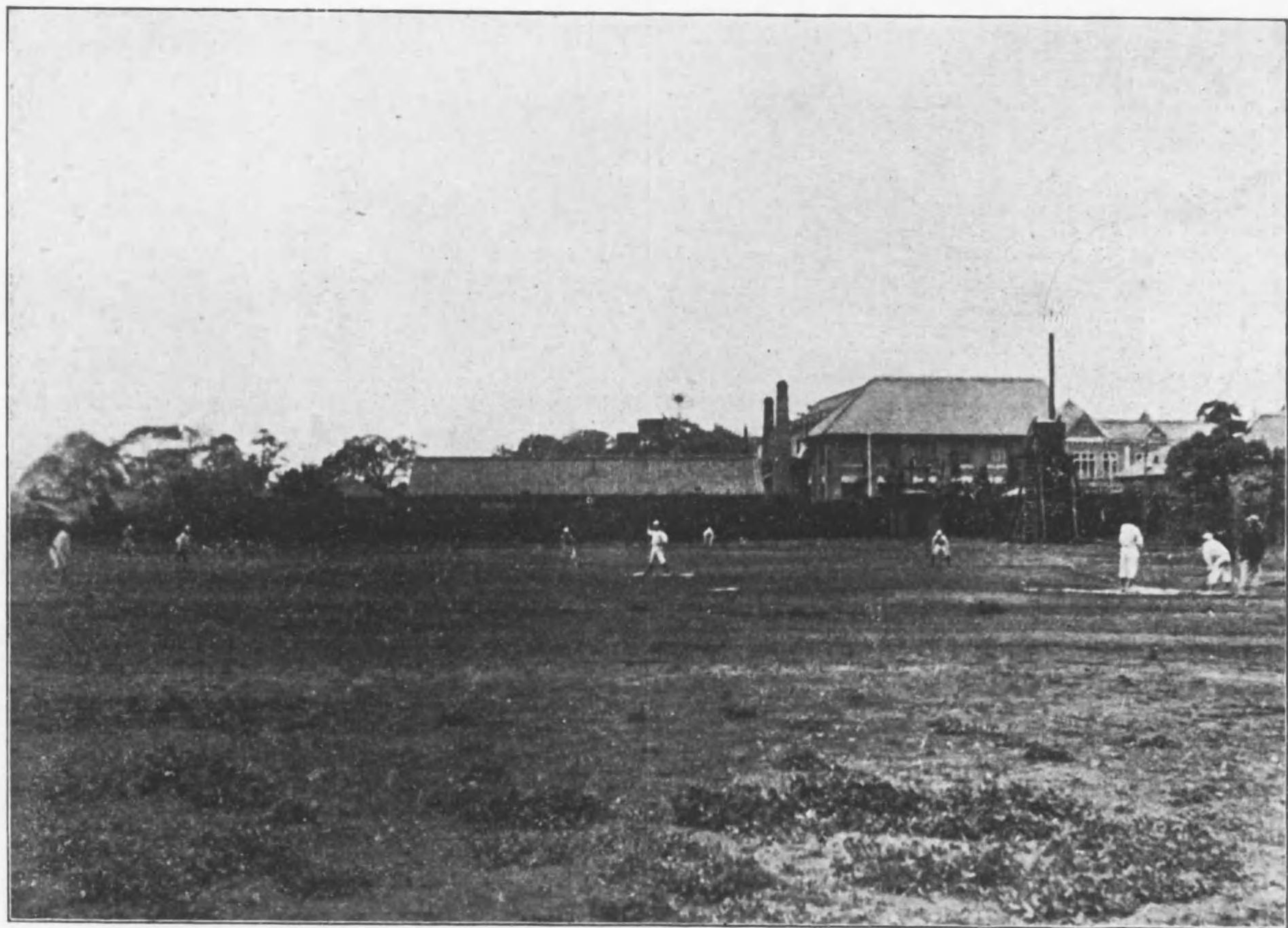
結論

自二五八
至二六〇

仕合規則

自二六一
至二一七

五十一ヶ條——新式ノ採點表



ク欠ナL.F.シ但影ノ野全

增補 野球

總論

序論

中馬 庚 著
青井 鉞 男 增補

宇宙茫漠天地悠久ヲ觀シテ人事ノ忽微ヲ歎セバ已マ
ノ苟クモ身ヲ立テ家ヲ成シ國ヲ建テナバ則チ現世ヲ
以テ主トセザル可カラズ今世ハ未タ道理ノ世ニアラ
ス世界ハ未タ一家ヲ成サス而シテ優勝劣敗ハ生物界

ノ大法ナリ是ニ於テカ人々相争ヒ國々相犯ス争フ所
ハ智力ニアリ犯ス所ハ腕力ニアリ而シテ健全ナル頭
腦ハ健康ナル身軀ニ宿ス况ンヤ本邦古來尙武ヲ以テ
國是トスルオヤ躰育ノ要素ヨリ云フテ須ヒサルナリ
然レトモ予ノ尙ホ是ヲ説ントスルモノハ抑々亦其謂
ヒナキニアラス

青年ノ人血氣方サニ滿チ躰力旺盛ニシテ事ヲ好ムコ
ト甚シ煩法苛式或ハ以テ是ヲ抑壓スルヲ得ヘシ然レ
トモ其極ヤ人ニ勇ナク國ニ士ナキニ至ラソ放任遺棄
其自然ニ任セバ則チ放逸無賴其極ヤ人ニ節制ナク國
ニ秩序ナキニ至ラソ青年洩氣ノ法蓋シ講セスソハア

ル可カラサルナリ而シテ青年ノ際志氣未タ高尙ナラ
ス形而上ハ其解スルニ苦ム所ニシテ形而下ハ其熱狂
スル所ナリ故ニ壓スルニ煩法苛式ヲ以テスレバ青年
有爲ノ氣力ヲ銷磨スルニ或ハ圍碁ヲ以テシ或ハ骨牌
ヲ以テシ而シテ其反動ヤ時ニ同盟休校トナリ時ニ酒
樓ノ醜聞トナル若シ是ヲ放任スレハ則チ正式ノ課程
ヲ迂遠ナリトシ中道ニ業ヲ廢シテ無賴ノ群ニ入ル蓋
シ霸氣鬱勃血氣充滿止ムヲ得サルモノアレハナリ此
氣ヲ洩シ此情ヲ慰スルノ法唯活潑ナル運動アルノミ
活潑ナル運動ハ人ヲシテ坦懷ナラシメ剛毅ナラシメ
且ツ巽順ナラシム故ニ獨逸ニシモちるんうゑるわい

ね、とるんうゑるわいねアリ英ニくりつけつと、ばいと
れーすアリ皆以テ國技ト稱シ躰育ノ實ヲ學ケ洩氣ノ
具ニ供シ青年ノ酒色ニ耽リ小故ニ熱沸シ無用ノ談論
ヲ弄シテ自ラ傷ヒ復々世ヲ亂シ人ヲ誤ルヲ防ク運動
ノ要蓋シ躰育ノミニハアラサルナリ
運動ノ要大略上ノ如シ然レトモ校内ノ運動ニ至リテ
ハ更ニ一言ノ附記スヘキアリ校際仕合是レナリ近時
諸校ノ警報日ニ至ル而シテ其幸ヒニ無事ナルモノヲ
見ルニ才子彬々トシテ堂ニ滿チ坐作進退夫レ鞠躬如
タリ然ルニ退テ其私ヲ見ルニ校友未々嘗テ胸襟ヲ披
カス師弟未々嘗テ障壁ヲ撤セス一々ヒ校門ヲ出レハ

即チ校友四散シ師弟疎遠ス如斯ハ豈ニ國家ノ慶事ト
ラシヤ是ニ於テ先覺ノ君子憂國ノ志士舌ヲ鼓シ筆ヲ
揮フテ師弟ノ誼ヲ説キ交友ノ義ヲ論ス其教ヤ服スベ
ク其言ヤ聞クヘシ然レトモ青年ノ際無形ハ以テ其心
ヲ動カスニ足ラス無事ハ其苦ム所ナリ窈カニ惟ラク
校際ニ有形ノ競争ヲ試ムルヲ得バ庶幾クハ以テ此缺
ヲ補フニ足ラシカト夫レ吳越船ヲ同フスレハ尙ホ且
ツ相拯フ神后三韓ヲ征シテ邦人始メテ已レノ一ナル
ヲ覺ル故ニ司馬法曰國無外患者必亡ト今日全國ノ諸
校何レカ無形ノ競争ヲナサル然レトモ是レ未々以
テ青年ヲ動カスニ足ラサルナリ若シ夫レ校ト校ト互

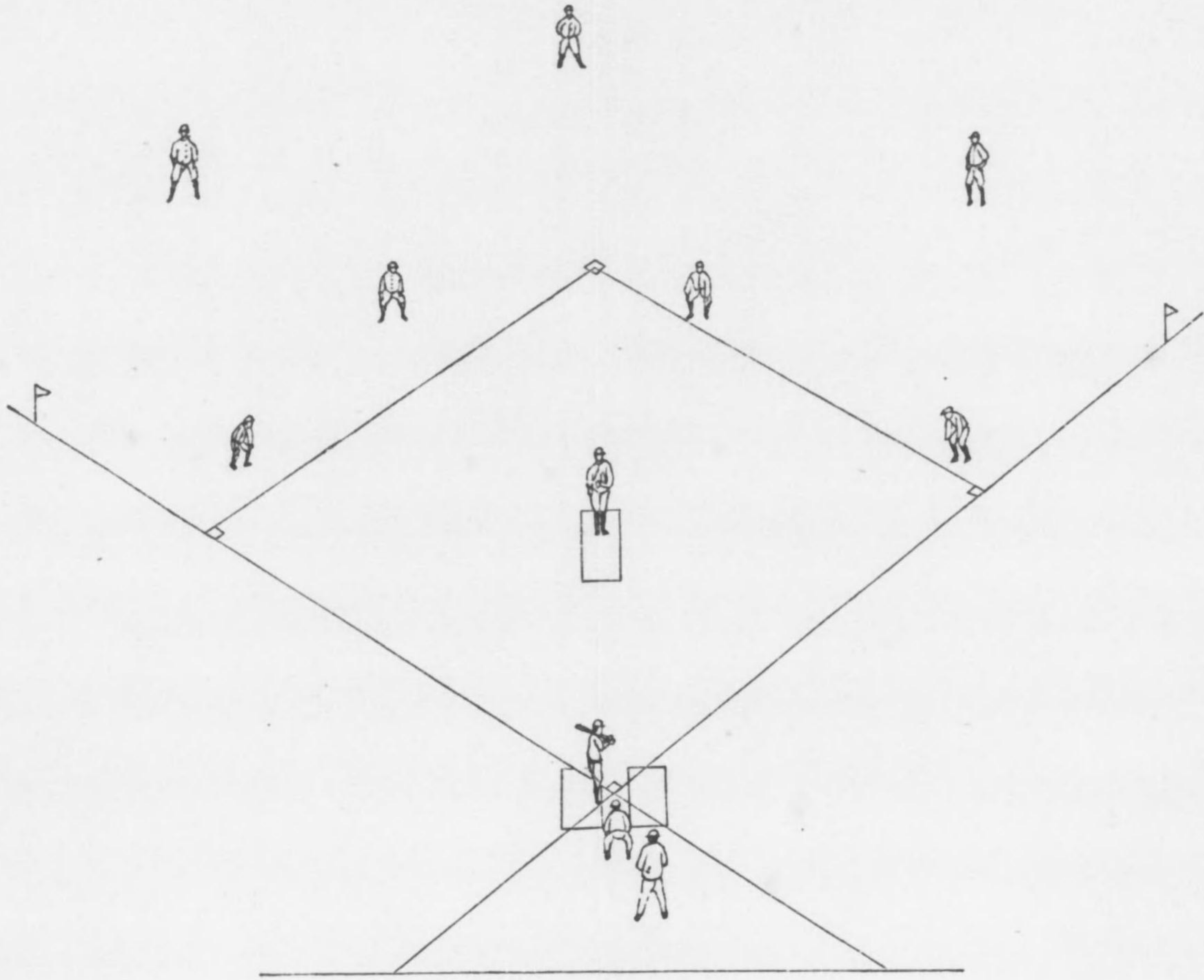
ニ其精銳ヲ選ミ日ヲ定メ時ヲ剋シテ相較シ校長是ヲ
 督シ教授是ヲ幹シ委員是ニ奔走セハ是レ校ニ外患ア
 ルナリ有形ノ目的アルナリ師弟爰ニ接シ校友爰ニ胸
 襟ヲ披カシ蓋シ人心ノ忽微ヲ察スルニ無事ノ日ニア
 ツテハ隱蔽粉飾シ好シテ異ヲ立テ說ヲ作スモ一タビ
 同舟遇颶ノ厄ニ會スレハ其本心ヲ吐露シ其熱誠ヲ輸
 サハルハナシ況ンヤ青年潔白ノ士ニ於テオヤ一致ノ
 實爰ニ舉リ愛校ノ念是ニ萌サシ是レカ指導者タル者
 唯其誤レルヲ正シ其甚シキヲ去レハ即チ足ラシ
 校際仕合ノ益大略上ノ如シ加フルニ見聞ヲ擴メ校交
 ノ道ヲ知リ一身ノ行動ハ直チニ以テ全校ノ行動ト目

セラル、ニ會セバ酒樓ノ汚聞鑽墻ノ醜聲ノ如キハ自
 ラ其跡ヲ絶タシ然ラハ則チ何者ヲ假リテカ以テ氣ヲ
 寓シ以テ競争セン擊劍柔術端艇ノ如キ共ニ其適セル
 モノナリ而シテ予ノ爰ニ編テ逐フテ記述セントスル
 野球モ亦其選ニ入ルベキモノナルヲ信ス

野球ノ大要

此技ハ北米合衆國ノ國技ニシテ彼ニアツテハ Base Ball
ト稱シ我ニアツテハ明治二十六年四月以來第一高等
中學校ニ於テ其野外ノ遊戯ナルヲ以テ庭球^{ロイヤル}ニ對シテ
野球ト命名セルヨリ原名ト併用セラル、ニ至レリ然
レトモ全ク新來ノ技ニシテ本邦未タ嘗テ類似ノ技ナ
ク加フルニ其法複雑ナルカ故ニ是レカ詳説ヲ述フル
ニ先チ先ツ其大要ヲ略述シテ讀者ノ便ニ供セシ
卷末ノ圖ニ示スカ如キ線ヲ平地ニ劃シ撰手各九人交
互ニ是ヲ守ルナリ其九人ノ名稱ハ

第一圖



Pitcher	(P.)	Catcher	(C.)
Short Stop	(S.S.)	First Base	(1.B.)
Second Base	(2.B.)	Third Base	(3.B.)
Right Field	(R.F.)	Centre Field	(C.F.)
Left Field	(L.F.)		

備考括弧内ノ頭字ハ略符ニシテ以下悉ク是レヲ用
フ

敵ノ九人各其地ニ就テ全場ノ守備ニ任スレバ攻者タ
ル九人ハ一人宛順ヲ逐ヒ棒ヲ手ニシテ打手ノ地ニ立
チP.ノ打手ニ投スル球ヲ打チ直チニ1.B.ニ走レハ敵ハ
其球ヲ受ケテ1.B.ニ投ケ球若シ打手ヨリ先キニ1.B.ニ達

スレハ其打手ハ死シ若シ幸ニシテ球ヨリ早ク達セバ
 死セスシテ 1.B.ニ止リ卷末ノ規則ニ規定セル諸種ノ困
 難ヲ犯シテ 2.B.ニ達シ 3.B.ヲ經テ Home Base (以下悉クH.B.ノ
 略符ヲ用フ)
 ニ達スレバ攻者ニ一點ヲ加ヘ生還セリト稱ス死者已
 ニ三人ニ達スレバ是ヲ Side Outト稱シ攻者ハ變シテ守
 者トナリ守者ハ攻者トナリテ前ト同シク球ヲ打チ死
 者三人ニ及ベバ又交代ス是ニテ第一圍ヲ了リ第二圍
 以下是ニ同シク反復第九圍ニ至リテ各其得點ヲ比シ
 テ勝敗ヲ定ムルナリ
 用具ハ棒トベイスト C.ノ用フル面ト手袋トナリ共ニ
 東京本郷ノ美滿津商店ニ於テ嚮クモノヲ最上トス

此技ノ性質

抑々此技ノ性質タルヤ已ニ説明セルカ如ク區線ヲ施
 セル廣庭ニ於テ九人ノ撰手球ヲ用ヒテ競技スルモノ
 ニシテ其用球ハ堅實ニ其法則ハ繁雜ニ危機毫髮ヲ容
 レス快舉衆目ヲ驚カスノ機會ニ富ムカ故ニ最モ勇氣
 ヲ尚ヒ機敏ヲ專ラトシ重肩鐵脚ヲ令スルニ機ヲ察シ
 微ヲ知ルノ心ヲ以テセサル可カラス一言以テ是ヲ蔽
 ヘハ心身共ニ秀拔ナルヲ要ス心ニ於テハ慎重煩慮ナ
 ランヨリ寧口豪放果斷ナレ株ヲ守テ安ヲ貪ランヨリ
 寧口新ヲ出シテ險ヲ冒セヨ運巧ハ此技ノ忌ム所拙速

ハ此技ノ特長ナリ瓦全ノ Sandling ハ撰手ノ賤ム所ニシテ玉碎ノ O.E. ハ撰手ノ屑シトスル所ナリ事後ニ噬臍セスシテ常ニ機先ヲ制セヨ保守ハ此技ノ取ラサル所願望ハ此技ノ憂フル所而シテ逡巡躊躇婦女子ノ態ヲ學フニ至リテハ此技ノ與カリ知ラサル所ナリ進取ナレ果斷ナレ敏活ナレ己レノ進退ヲ敵ニ委スル勿レ己レノ進退ヲ以テ敵ヲ左右セヨ己レノ施サントスル所ヲ敵ニ曉ラシムル勿レ常ニ敵ノ欲スル所ヲ事前ニ察セヨ此技ノ性質大要斯ノ如シ而シテ予輩ノ今日此技ヲ以テ學校運動ノ最良ナルモノ、一ニ居ルトナスハ復聊カ其謂ヒナキニアラス今條ヲ逐フテ論陳セシ

第一 邦人ノ性ニ適ス抑々邦人ハ外人ニ比スレハ慧ナリ敏ナリ捷ナリ急ナリ他ノ美德ナキニアラサルモ此數者ハ邦人獨得ノ長所ナリ古來ノ馴致セル所遺傳以テ性ヲナセル者抑々是ヲ矯正シテ遲トナシ重トナシ鈍トナシ拙トナス可キカ將々益々其長所ヲ養ヒ長セシメシカ蓋シ今日ノ大問題ナリ國性ヲ矯正セシトスルノ難キハ固ヨリ言フテ須ヒス常ニ國運ヲ危フスルノ傾キアルハ古今ノ史乘皆其然ルヲ証セサルハナシ況ンヤ我邦ノ長所ナルモノハ賤ム可キモノニアラスシテ却テ貴重ス可キモノナルオヤ然ラバ益々以テ我ノ長ヲ養ヒ且ツ彼ノ長ヲ採ラハ卑キニ就クノ勢

其效果ノ大ナル學ケテ云フ可カラス而シテ此技ノ此性ヲ養フニ微效アル可キハ上ニ概叙セル所ヲ以テ見ハ自カラ明カナラン

第一 運動ノ青年ニ必要ナルハ已ニ論セリ而シテ其運動タルヤ身躰ヲ練ルト共ニ快樂ヲ與フルモノナラサル可カラス今日行ハル、運動ハ其固有ナルト傳來ナルトナ問ハス各得失アリテ其間違カニ優劣ヲ定ム可カラス且ツ一長一短其間果シテ優劣ノ存スルアルヤ否ヤ甚タ疑フ可キモ復タ時勢ニ應シテ自ラ其盛衰ナキニアラス擊劍柔術ハ大ニシテハ氣ヲ養ヒ膽ヲ練リ小ニシテハ侮ヲ禦キ暴ヲ懲ラスノ效アルモ多少

陳腐ノ觀アリ且ツ古來ノ積習其秘奧ヲ餘リ神聖ニスルカ故ニ廣ク今日ニ行ハレス是レ其技ノ惡キニアラス蓋レ古ヲ厭ヒ新ヲ樂ム時勢ノ罪ナリ機械躰操ハ校ノ正課トシテ課セラル、カ故ニ却ツテ課外ノ時ニ從事スル者少キハ或ハ人情ノ自然乎端艇ニ至リテハ今ヤ滔天ノ勢ヲ以テ天下ニ行ハレ琵琶湖上ノ大會ニ至リテハ天下ノ青年茲ニ會シ各校ノ氣脈是ニ通シ四方ノ健腕是ニ演セラレ實ニ青年界ノ一大觀ニシテ予ノ所謂運動ノ大目的ナル者實ニ是ニ過キス野球ニ至リテモ復第一高等學校ノ横濱試合以來廣ク天下ニ流布セントシ青年ノ視聽率是ニ傾ケリ而シテ其性質タ

ルヤ上ニ列擧セルカ如ク青年洩氣ノ一端ニ供スルニ
 足リ其弄球法タルヤ下ニ論スルカ如ク行ヒ易キカ故
 ニ以テ上ハ大學ヨリ下ハ小學ニ至ルマデ校技ノ一ト
 スルニ適セリ特ニ校ト校ト相角スルニ當リテハ器具
 運送ノ煩アルニアラス大河巨湖ヲ擇フノ要ナクシテ
 愛校ノ念ヲ養ヒ競争ノ情ヲ慰スルニ足レリ是レ予輩
 ノ以テ校技トスルニ適セリト稱スル所以ナリ

第三 端艇ト野球トハ今ヤ本邦校技ノ二大觀ナル
 ハ已ニ論セリ而シテ予輩ノ二者ノ中殊ニ野球ヲ以テ
 普ク天下ノ青年諸氏ニ勸誘セントスルモノハ他ノ意
 アルニアラス唯經濟ト便宜トノ二小因ニ過キササルナ

リ端艇一隻ノ價若シ使用スルニ堪フルモノヲ求メバ
 其最下ナルモノヲ求ムルモ猶ホ參拾圓ヲ超ユベク修
 繕ノ費艇庫ノ保存亦容易ノ業ニアラス況ンヤ本邦山
 勢ノ峭拔ナル大河巨湖ハ隨處ニ之ヲ覓ム可カラス學
 窓ニ呻吟スルノ水夫ニ適スルノ港灣ハ各地ニ普キニ
 アラス況ンヤ時ニ是アルモ鎖國封建ノ紀念貴士賤商
 ノ餘響トシテ多クハ市府ヲ距ルコト數里ノ外ニ在リ
 特ニ校ト校ト相角セントスルニ當リテハ水流測定ノ
 不充分ナル敵ノ端艇ニ不熟ナル敗者ハ以テ口ヲ藉ス
 ルヲ得ベク勝者ハ以テ誇ルヲ得ス完全ナル競争ハ蓋
 シ得テ期ス可カラサルナリ若シ數十年ノ後ニ至リ一

國ノ富力益々進ムニ至テハ中學校ハ或ハ此困難ヲ排
 ス可キモ普ク小學ニ及ブニハ想フニ容易ノ業ニアラ
 ザル可シ之ニ反シテ野球ニ至リテハ一球各々參拾錢
 乃至七八拾錢數箇以テ優ニ一箇月ヲ支フ可ク打棒數
 本或ハ半年ノ用ニ充ツ可ク二反ノ平地ハ隨處ノ校庭
 ニ存ス球ヲ懷ニシテ棒ヲ肩ニシ紺の脚絆に足袋跣足
 以テ他校ニ赴ク可ク練習半日以テ敵ノ野球場ニ熟ス
 ルヲ得ベシ故ニ今日日本邦富ノ程度及ヒ學校所在地ヨ
 リシテ予ハ此技ヲ以テ最モ行ヒ易キモノナルベシト
 信シ敢テ天下ノ青年諸君ニ勸誘スルコト然リ

略史

北米合衆國ニ於ケル略史

外人運動ヲ嗜ムコト甚シク其種類一ニシテ足ヲス撃
 劍アリ拳法アリ相撲アリ躰操アリ操櫓アリ帆走アリ
 而シテ球技ニ至リテモ亦其種類一ニシテ足ヲスふ
 とぼゝるアリ庭球アリころつけーアリ内くりつけつ
 とト稱スル英國々技アリ深ク英人ノ嗜好スル所トナ
 レリ此技英人種ト共ニ北米ニ移植シテ今世紀ノ初メ
 ニ至リ其變形セルモノ漸ク學生間ニ行ハル、ニ至リ

年ヲ逐フテ益々變形シ來リテ遂ニ今日ノ野球ヲ成スニ至レリ是レ蓋シくりつけつとハ時ヲ要スルコト甚シク一試合ニシテ率テ二三日ニ涉リ妙手相角スノハ或ハ一週日ノ久シキニ及ビ漸ク多忙ノ世情ニ適セサルニ野球ハ之ニ反シテ長キモ半日ヲ出テス勁敵相會スレハ僅カニ八九十分ヲ以テ了ルカ故ナリ加フルニ藍ヨリ出テ、藍ヨリ青ク變化ノ錯綜セル熟練ノ多様なル進取ノ氣象アル大ニ今世紀ノ情ニ合セルヲ以テ齊シク世ノ歡迎スル所トナリテ千八百五十年代ニハ已ニ是ヲ以テ營業トスル者ヲ生シ恰モ本邦ノ相撲ノ如ク組合ヲ設ケ規則ヲ確定シテ此技ヲ練磨シ六十年

代ニハ已ニ東部諸州ニ波及シテくりつけつとト其隆盛ヲ競ヒシカ同年代ノ末千八百六十八年ニ至リテゑる、は、わ、い、とノ二大學ハ年々試合ノ約ヲ結ビテ今日ニ及ビしんしんなち府ニ於テハ此道ノ偉人は、い、ら、い、と各専門家ヲ糾合シテ一組合ヲ起シ己レノ撰手ヲ赤脚祥組ト稱シ明年四月是ヲ提ケテ先ツ積年ノ勁敵タル同府ノふつけや俱樂部ヲ破リ東部諸州ニ轉戦シ到ル處敵ヲ蹂躪シ翌千八百七十年七月ニ及ヒめいん州ニ起リテかりふをるにあ州ニ至リ二年ノ久シキ未タ曾テ敗ヲ取ラス名聲四方ニ噴々トシテ今日ニ至ルモ赤脚祥組ヲ稱セサルモノナク遂ニくりつけつ

どチ壓シ此技ヲ以テ北米ノ國技トナセリ是ニ於テ全
 國ノ視聽一ニ此技ニ集マリ遂ニ數俱樂部ノ連合ヲ促
 シ年々相角シテ以テ桂冠者ヲ定ムルノ制確立シ四方
 ノ俱樂部共ニ赤脚裨組ヲ招クコト急ナリ是ニ於テ氏
 ハばすどん府ノ聘ニ應シテ同府ノ赤脚裨組ヲ組織シ
 テ衡ヲ爭ヒ千八百七十一年ノ戰ニ敗レシモ更テニ屈
 セス再ヒ旅ヲ整ヘテ征途ニ上リ千八百七十二年ヨリ
 シテ同七十五年ニ及ビ四年ノ間常ニ桂冠ヲ手ニセリ
 千八百七十六年ニ至リ新タニなしよあるりーぎやう
 ノ組織成ルニ及ビ氏ノ四天王P.すはるりんぐC.不わ
 いどB.まつくうゑいB.ばるんチシテ市俄高府ノ招キ

ニ應セシメ氏ハ殘軍ヲ糾合シ越ヘテ千八百七十七年
 ニ至リテ復タ第一位ヲ占メ明年復タ桂冠ヲ頂テばす
 どんチ去リ費府ノ新俱樂部ヲ引卒セリ
 市俄高府ノ招キニ應セルすはるりんぐ氏ハ術ヲ練リ
 士ヲ招キ千八百八十年ニ至リテ始メテ雄飛シ爾後七
 年ノ間遂ニ組合ノ雄ニ推サレ野球ハ益々全國ニ波及
 シテ國技ノ地益々堅ク從ツテ組合ノ財政益々豊カニ
 給料大ニ上リ一季間ノ給料千弗ヲ受クルモノ少カラ
 サルニ至レリ是ニ於テ此技ヲ他國ニ輸入セントシテ
 千八百八十九年ニ氏ハ市俄高全米ノ二俱樂部ヲ率ヒ
 布哇ヨリ濠州ニ入り或ハ埃及ノ三尖塔下ニ或ハ羅馬

ノ古殿庭ニ或ハ佛都ノ中央ニ到ル處其技ヲ演シテ常ニ觀衆ノ喝采ヲ博シ遂ニ英國ニ入リテ國內ヲ周遍シ到ル處英國ノ國技ナルくりつけつとチ試ミテ勝ヲ制シ遂ニ皇太子殿下ノ觀覽ヲ忝フシテ歸國セリ是ヨリシテ英人モ是ニ志サスモノ尠カラス千八百九十年ニ至リ野球ノ教師ヲ米國ニ募レルニ博士學士ニシテ是ニ應スル者尠カラス英人ハ爲メニ北米國技ノ盛大ナルニ吃驚セリト云フ

千八百九十年代ニ至リテハ野球ノ流行益々甚シク學生間ニ於テハ固ヨリ言フチ俟タス專業是ニ從事シテ衣食スル恰モ我相撲取ノ如キ者各々數俱樂部ヲ聯合

シテ組合ヲナシ規約嚴正ニシテ相犯スチ禁シ日表ヲ定メテ日々是ヲ催セリ其組合ノ大ナルモノハ即チは「リ」らいと、すはるりんぐ等ノ創立セル國民組合ニシテ此組合ニ屬スルモノハばるちも「る、紐育、ぼすとん、費府、ぶる「くりん、くれ「ぶらんど、びつつぶるぐ、市俄高、せんと、るい、しんしんなち、華盛頓、るいすうゐるノ十二俱樂部ニシテ共ニ東部諸州ノ大都ヲ代表セル者ナリ全國ノ精銳悉ク是等ノ俱樂部ニ集リ年々新規則ヲ撰ンテ全國ニ分チ盟主ノ地ニ立テリ次ハ西部組合東部組合等ノ數組合ニシテ共ニ其盛大ニ誇リ學生間ニアツテハゑ「る、ぶりんすとん、は「わ「と三大學ノ

此合ヲ最大トシ其他ノ諸大學一トシテ相爭ハサルハ
ナク野球ハ正サニ昇天ノ勢ヲ以テ北米ニ冠タリ

本邦ニ於ケル略史

此技ノ本邦ニ傳ハレルハ果シテ何年ナリシヤ今詳言
スルコト能ハス横濱在留ノ米人はチ弄セシヤ固ヨリ
ナル可シト雖モ邦人間ニアツテ甚々盛ノナラス僅カ
ニ農學校工部大學等ニ寄寓スルノ姿ナリシガ明治二
十年頃ニ至リ平岡瀧氏米國ヨリ歸朝シ新橋停車場工
場ニ奉職シテ同工場ノ吏員間ニ是ヲ傳へ熟練天下ニ
冠タリ諸校ノ學生就テ學フ者多ク此洵大ニ進歩シテ

諸校互ニ仕合ヲ催フシ就中農學校牛耳ヲ取リ大學明
治學院慶應義塾青山英和學校等是レニ次キテ一時大
ニ流行セリ爾後暫ク沈滯セシカ明治二十三年ニ至リ
明治學院大ヒニ奮興シテ諸校ヲ蹂躪セルニ同年秋ニ
至リ第一高等中學校漸ク頭角ヲ抽テ明治學院ニ報仇
シ溜池俱樂部ヲ敗リ明年春府下ノ聯合撰手ヲ農學泮
野球場ニ敗リシヨリ名聲益高ク遂ニ覇ヲ唱フルニ至
レリ地方ニ傳播セシハ何時頃ナルヤヲ知ラサルモ此
頃ヨリ處々ニ行ハレ就中京都ノ同志社大ヒニ此技ヲ
練リ三度第三高等中學校ヲ敗リシヨリ名聲頓ニ上リ
第一高等中學校ト東西相對立セリ是ニ於テ第一高等

中學校ヨリ戦ヲ挑ミシモ同志者力足ラストシテ辞セシヲ以テ爾後大仕合ナク漸ク消沈セントセルニ昨年春ニ至リ突然第一高等學校ト横濱外人ト戦ヒ三戦三勝セシヨリ遽カニ天下ノ耳目ヲ聳カシ第四回ノ仕合ニ不幸敗北セシモ全國到ル處ニ流行シ第一高等學校ハ昨年秋ニ入リテ戦ヲ挑ミシモ外人是ニ應セス今春ヲ期スルコトヽナリテ暫ラク靜止セルカ如キモ地方ニ於テハ其勢甚々盛ンニシテ昨年秋茨城栃木両中學校ノ仕合アリ今春ニ入リテ熊本山口両高等學校ノ仕合アリテ將サニ天下ニ波及セントス猶其詳細ニ至リテハ第一高等學校野球部出版ノ野球部史ニ詳カナリ

練習

野球ニ熟スルハ甚々難キニアラサレトモ球ヲ手ニシ棒ヲ肩ニシテ直チニ試合ヲ行ヒ得ヘキニアラス否ナ直チニ運動場ニ臨ム可キニアラス早キモ二三ヶ月ノ間ハ豫備練習ヲ經サル可カラス故ニ試合ニ就テ各心得ヲ論スルニ先ツテ先ツ練習ヲ述ヘントス是レ實ニ進歩ノ順序ニシテ復々最モ重ノス可キ基礎ヲナスモノナレハナリ故ニ讀者ノ殊ニ此章ニ留意アラシコトヲ望ム

野球ノ興味ニ富ミ姿容ニ饒ニ行ヒ易クシテ最モ學校
 遊戲ニ適セルハ已ニ總論ニ詳述セリ然レトモ尙ホ且
 ツ廣ク世間ニ行ハレサルハ其規則ノ複雑難解ナルニ
 因ル可シト雖トモ抑々亦其甚タ入り難キニアリ故ニ
 此技ヲ學ハントスルモノハ勇氣ハ云フテ俟タス忍耐
 不屈ヲ以テ從事セシコトヲ要ス又野球ノ熟練ヲ要ス
 ルノ多様ナル各部門殆ント相關セサルノ觀アルモノ
 一ニシテ足ヲス甲事ニ長セルモ乙事ニ短ナルアリ投
 球砲彈ヲ欺クモ堅棒常ニ風ヲ打ツモノアリ故ニ其練
 習モ復一様ナラス今悉ク類ヲ分ツテ是ヲ論セントス

一 般 心 得

野球ニ最モ必要ナルハ心ニ於テハ機敏ト勇氣トナリ
 身軀ニ於テハ爛眼ト強肩壯腰ト疾足トナリ而シテ皆
 野球ヲ以テ不知不識ノ間ニ是ヲ養成スルヲ得ヘシ心
 術ニ關スルノ點ハ總論ニ於テ已ニ論シ悉クセリ身軀
 ニ於テハ眼力ノ強壯ヲ最モ貴重ナリトス眼鏡ヲ用フ
 ルモノハ危險ナルヲ以テ或ハ此技ニ從事セサルヲ可
 ナリトス然レトモ敢テ能ハサルニアラス横濱國際試
 合ニ青井鉞男氏ノ魔球ヲ受ケテ一絲亂レサレシ藤野
 修吉氏其人ハ實ニ十三度ノ近視眼鏡ヲ常用スルヲ以

テモ是ヲ知シ可シ肩及ヒ^レノ強壯ナルハ是ニ亞ケル要件ニシテ共ニ投球ニ必要ナリ蓋シ野球ニ於テ最モ熟練シ難キハ投球ニシテ數年練磨ノ巧手ト雖モ時ニ或ハ高低宜シキヲ失ヒ目標左右ニ逸スルノ患アリ殊ニ名手ノ事ニ堪ヘサルニ至ルハ率子投球ニ堪ヘサルカ故ナリ疾足ハ單身以テ廣キ場面ヲ擁護スルニ妙ナリ殊ニ走リ^レノ際ニハ其有效ナルヤ言フテ須ヒス其他猿臂ナル者ハ手ノ及フ所廣キカ故ニ之ク仰視ノ飛球ヲ捕フヘク殊ニ走リ乍ラ^レテ拾フニ妙ナリ鶴脛ナルモノハ率子疾脚ヲ有^レ殊ニI.B.ヲ守リ趾端ノミヲベ^レすニ付ケ躰ヲ外ニシ走者ノ衝突ヲ避ケテ球ヲ受

クルノ利アリ然レドモ短身鴨脚ノ者ハ^レチ身ヲ以テ支ヘテ容易ニ脱セシメス且ツ又胸脚ノ間短縮ナルヲ以テ敵ノP.ニ^テBallノ醜ヲ演セシムルノ利アリテ長身鶴脚者ノ常ニ^{3.}Suplexヲ算セラル、者ヲ笑フニ足ル是ニ於テ上來論シ來ル所ヲ約言スレハ心術上ニ於テハ機敏身体上ニ於テハ炯眼ヲ最大必要トスレドモ此二者ハ養ヘバ以テ憾ミナキニ至ルヲ得ベク腕ニ長短ノ別アル脛ニ鴨鶴ノ差アル各其得失アリ即チ何種ノ人ト雖モ得喪長短一ナラス務メテ英雄ノ心ヲ攪リ器ニ應シテ其人ヲ用非ナバ天下蓋シ野球ニ適セサルノ人ナカル可シ而シテ更ラニ一言附加ス可

擊劍ノ如シ或
 ル點迄ハ腕力
 ヲ要セス然レ
 トモ名手ニナ
 ル人ハ身体強
 壯腕力人ニ優
 レル人ナラシ
 忘ルベカラス
 (森脇幾茂)

キハ此技ノ決シテ腕力ヲ要セサルナリ且ツ腕力ヲ
 養フニ於テ甚シキ效ナキコトナリ野球ヤ其旨トスル
 所ハ機敏ヲ養フニアリ爛眼ヲ尙ブニアリ腕力アルハ
 固ヨリ貴ブ可キモ強テ此技ノ要スル所ニアラズ要ハ
 心術ノ點如何ニアルノミ

受け方

野球ハ已ニ説明セルカ如ク球ヲ操縦スルノ技ナルガ
 故ニ球ノ受け方ハ實ニ其重要ナル部ニシテ殆ヅト野
 球ノ基礎ヲナセリトモ稱ス可シ然ルニ世人ハ多クハ
 のつくヨリ初メ又多少造詣スル所アレバ直チニ投げ

合チ廢スル者アリ是レ實ニ本ヲ忘レテ末ヲ勉ムルモ
 ノト云フ可シ今順チ追フテ各種ノ受け方ヲ説クニ當
 リ先ツ受け方ノ諸式ヲ説明スルヲ以テ至當トス
 極論スレハ受け方ニ一定ノ式アルコトナシ然レトモ
 受け方ノ目的トスル所ハ第一球ヲ受留ムルコト第二
 受留メテ速カニ投ケ返スコトナルヲ以テ理論上出來
 得ベキ者ノ内上ノ二目的ヲ達シ且ツ指ヲ挫キ掌ヲ痛
 ムルノ憂少ナキモノハ次ノ三種及ヒ球ノ左又ハ右ニ
 來ルニ隨ヘル其變形トス
 茲ニ注意ス可キハ如何ナル場合ト雖モ球ヲ受クルニ
 當ツテハ決シテ指ヲ孤立セシメス必ス拇指ヲ除テ他

第二圖



高球受方

四指ハ緊接スベキコトナ
 リ是レ一矢易折衆矢難折ノ
 理ニシテ初心者ノ負傷スル
 ハ率子比注意ヲ怠レルニ基

第一高球受け方

走レ乳以上ニ來ル球ヲ受ク
 ルノ式ニシテ四指ヲ緊接シ
 右ノ四指ハ左手ノ内ニ入レ
 テ少シク屈シテ急ニ球ヲ握
 リテ投ケ返ヘスノ備ヲナス

胸ノ邊ニ來ル
 高球ヲ受クル
 ニハ双腕ヲ前
 ム突出シ兩掌
 ヲ合シテ腕ト
 一直線ニシ球
 ノ來リテ已ニ
 指端ニ接スル
 可急ニ手首ノ
 ヲ動シテ第
 一式ノ姿ヲ取
 リ可シ此姿ヲ
 取ルニ類

球ニ隨ヒテ
 掌ヲ動カスニ
 元來第一式ヲ
 取レル者ヨリ
 便ナリトス
 (宮口竹雄)

ベシ親指ハ底ヲ作ラシカ爲メニ二本駢立スルモ可ナ
 レトモ相重マルチ力アリテ強球ノ貫通スルチ防クニ
 便ナリトス
 是レ其正形ニシテ球ノ身軀ト一直線上ニ來レル式ナ
 リ若シ左又ハ右ニ逸シテ來ラバ其逸スルコト少キモ
 ノハ臂ヨリ上ノミチ斜メニシテ此形ヲ以テ受ケ留ム
 ベク若シ逸スルコト甚タシクハ腰ヨリ上ヲ斜ニスベ
 シ然レトモLB等動ク能ハサル位地ニアラサル以上ハ
 成ルベク身軀ヲ動カシ正式ニ反譯シテ受クルチ萬全
 ノ策ナリトス

第二中球受け方

圖三第



方け受球中

中球トハ乳ヨリ臍ノ間ニ來
 ル球ニシテ是ヲ受クルニハ
 左掌ヲ下ニシ拇指ヲ掌ノ外
 縁ニ密接シ右掌ハ蓋トナリ
 其拇指ヲ尾栓トスベシ各指
 ノ緊接前ニ同シ而シテ此式
 ニハ其變形アルコトナク是
 ヲ用フ可キハ臍ノ上下左右
 數寸ノ間ノミ此ヨリ逸スレ
 ハ低球受ケ方ノ變形ヲ以テ
 應セサル可カラス且ツ高ヨ

飛ビ上リテ低
 球受け方ヲ用
 フルモ可ナリ
 (上村行榮)
 高キヨリ垂直
 ニ墜落シ來ル
 球ニモ余ハ履
 ヲ此式ヲ用フ
 テ過失少ナシ
 (森脇茂)

リ殆ント垂直ニ落下シ來ル球ニハ此式ヲ用フル能ハ
 サルカ故ニ殆ント此式ヲ用フル者アルナク中球來ラ
 ハ少シク腰ヲ屈シ高球ニ反譯シテ受クルヲ常トシ今
 ヤ殆ント理論上ノ式タルニ過キス但シ強球ニ貫通セ
 ラル、モ腹部ヲ以テ是ヲ止ムルノ利アルカ故ニ昔時
 素手ニシテ Catching ナ行ヒシ頃盛ノニ行ハレタリ

第三低球受け方

低球トハ臍ヨリ以下ニ來ル球ニテ此式ハ三式中最も
 重要ナルモノナリ後章ニ説明スルカ如ク試合ニハ最
 モ此式ヲ尙ビ且ツ率子人ノ熟練シ易キ式ニシテ三式
 中其應用最も廣ク其變形極メテ多シ四指ハ緊接シ小

第四圖



低球受け方

指ト小指トチ合シ
 拇指ハ掌ノ外縁ニ
 密付スルモ可ナレ
 トモ可成直立シテ
 球ノ入ルヤ直チニ
 是チ閉チテ其反跳
 シ出ルチ防クチ可
 ナリトス
 第三式ハ其變形一
 ニシテ足ヲスシテ
 殆ント別種視セラ

ル、モノアリ故ニ如斯チ假リニ其應用ト稱シテ先ヅ
 其變形ヨリ説カン
 變形ノ内第一ニ論ス可キハ第一式ノ變形ノ如ク球ノ
 左又ハ右ニ逸シ來レル時ニシテ第一式ニ於ケルカ如
 ク正式ヲ少シク斜ニシテ受クレバ可ナリ但シ此式ニ
 於テハ兩腕垂下シテ自然ニ適ヘルカ故ニ甚シク身体
 ナ動カスニ及ハス殊ニ右腰側ニテ受ケシモノハ躰ノ
 自然ニ適ヒ投ケ返スニ便ナルカ故ニ必要ノ際ニハ正
 式ヨリモ却ツテ此ノ變形ヲ尙ブコトアリ中球ニシテ
 左又ハ右ニ逸シテ來レル者ハ身躰ヲ全九十度轉回シ
 球ヲシテ側面ヨリ來ラシメ第三式ヲ以テ受ケントシ

ツ、身躰ヲ復タ舊位地ニ轉回スルヲ投ケ返スニハ最モ便ナリトス但シ一步ヲ誤マレバ球ヲ遠ク後ヘニ脱セシムルノ恐レアルガ故ニ投球ノ必要アルニアラズソハ膝ヲ折リ高球ニ反譯スルヲ最安ナリトス而シテ此式ノ變式ノ甚シキニ至リテハ高球ノ來レルニ急ニ身躰ヲ半以上後口向キニシ球ヲ半バ背面ヨリ來ラシメ第三式ヲ以テ受クルコトアリ是レP.等急劇ニ強球來リテ第一式ヲ以テ應スルノ速ナキ時此變式ヲ以テ數尺ノ間ヲ得ルニ妙ナリ惣シテ第三式ハ腕ノ自然ニ適ヘルカ故ニ野球ノ特質タル不意急劇ノ際ニ其利用甚タ廣シ

此變式ハ飛球ヲ走リツ、受クルニ便ナリトス
(上村行榮)

上來陳シ來レル所ハ皆空中ヲ飛ビ來ル球ニ就テナリ然レトモ茲ニ三種ノ變式アリ皆地ニ關セルモノニシテ總テノ球戲ニ必ラス生スベキ形ナリ殊ニ野球ニ於テハ其熟練ト興味トノ大半ヲナセルモノナリ Short Bound (以下SB.ノ略) Long Short Bound (以下LS.ノ略) 及ビころ是レナリ此三種ノ球ニ對スル受け方ハ受け方中最難ノ業ニシテ空中ヲ飛ブモノハ其畫ク弧線一定スレトモ此三種ニ於テハ然ラズ野球場ノ精粗硬軟乾濕球ノ精粗堅柔等ニ大ニ關係アルカ故ニ其形常ニ變化シテ變幻奇正端倪ス可カラサルモ共ニ齊シク是レ腰以下ノ球ナリ是ニ處スルノ法唯第三式ヲ應用スベキノミ今

順チ追フテ説明セシ

Short Bound ハ球ノ地ニ墜チ反跳シテ五寸以上ニ及ハサル内ニ受クルヲ云ヒ三種中最モ熟シ易キモノナリ是ヲ受クルノ法眼光鋭ク球ノ墜ツル點ヲ見定メ其點ヲ距ルコト五寸以内ニ兩掌ヲ第三式ニ構ヘ地面ニ直立又ハ少シク内方ニ向ケ指端ヲ地ニ輕ルク接シテ球ノ地ニ墜ツルト同時ニ少シク前方ニしやくり上クベシ是レ地平ニ並行又ハ平行ニ近キ弧ヲ畫キテ來ル球ニ對スルノ法ナリ若シ夫レ地ニ垂直ニ墜チ來ル球ニテ受ケントセバ兩掌ヲ放チテ共ニ是ヲ灣曲シテ球ヲシテ兩掌ノ間ヨリ地ニ墜チシメ墜ツルト同時ニ

しやくり上グベシ

S.B. ハ其應用甚タ廣ク且ツ球ノ秘性ヲ語ルモノナレバ少シク常球ノ受け方ニ熟セハ次ニ此受け方ヲ學ブベシ但シ初學ノ際ハ眼光鋭ナラス Direct 未ダ一度モ地ニ墜チズ低ク強ク來ル ナ誤リ認メテ S.B. トナシ或ハ掌ヲ打タレ或ハ手首ノ動脈ヲ衝カレ或ハ急所ヲ襲ハレテ萎縮シ大ニ難シトシ及ブ可カラストナスモノアレドモ夫ハ勇氣ノ乏シキナリ忍耐ノ足ラサルナリ而シテ調子ニ熟セサルナリ S.B. ナリトセルニ若シ Direct ノ來ルアラバ指背ヲ地上ニ印シテ直チニ驚擾ミニセヨ數週熟セサルモ猶ホ勉メテ球勢ト地質トニ注意セヨ而シテ調子

ニ熟スルノ法ハ一人窈カニ校庭ニ出テ、球ヲ垂直ニ低ク投ケ上ケ地ニ墜ツルト同時ニ両手ヲ合スル調子ヲ學ヒ雨天ニハ杙上ニ落シテ此調子ヲ學ブモ可ナリ久シカラスシテ其調子ニ熟セハ強猛砲丸ノ如キ熱球モ一タヒ反跳シテ其勢ヲ弱メテ常球ニ異ナラス旨味津々熟練ノ士ハ反ツテ酷ク是ヲ好ムニ至ラン

Long Short Bound

ハ S.B.ノ遠距離ノモノニシテ五寸

以上三尺以内ノ所ニテ受クルヲ云フ其姿勢心得一モ S.B.ニ異ナルコトナシ但シ S.B.ニ於テハ球勢地質共ニ甚シキ影響ナキモ LSニ於テハ然ラス地面堅クシテ且ツ濕氣アラバ其反跳スルヤ速カニシテ且ツ低シ地面柔

カニシテ乾燥セバ緩ニシテ高シ故ニ是ヲ受クルニ方リテハ第三式ニ構ヘ球ノ地ニ墜ツル際ニ殆ソト指頭ヲ地ニ接シ球ノ運動ニ連レテ漸次是ヲ上ケテ腰ノ邊ニ至ラシムベシ是レ低キモノハ其勢急ニシテ手ノ未ダ下ニアルニ到着シ高キモノハ其勢緩ニシテ手ノ已ニ腰ニ及ベルトキ始メテ到着スベケレハナリ又 LS.ヲ受クルニハ手ヲ上クルニ隨ヒ躰ヲ前方ニ前進セシムルノ注意ヲ要ス是レ早ク球ニ會セシカ爲メナリ要スルニ此球ハ至難中ノ難球ニシテ理論上ノ受け方ハ上ノ如シト雖モ地面ノ狀況ニ依リテ球ハ眞直ニ反跳セスシテ少シク側ニ逸シ或ハ兩掌ノ位置少シク當テ失

退ヒテ Bounal
トナスハ至ッ
テ容易ナリ平
日ノ練習ニハ
踏ミ出シ
S.B. 又ハ Direct
ニテ取ルベシ
球ナ恐レサル
ノ稽古ニハ此
上ニ出ツル者
ナシ
(森脇茂茂)

スレバ直チニ跳出スルカ故ニ平日ニ當ツテハ練習甚
タ勉ム可キナレドモ仕合ニ方ツテハ萬已ムヲ得サル
ニアラサル以上ハ進ンテ S.B. 或ハ退ヒテ尋常ノ Bounal
ニ反譯スルヲ可ナリトス但シ I.B. ニ於テハ如斯ヲ許サ
ヾルカ故ニ最後ノ一法アリ夫ハ I.B. ノ専門ニ属スルカ
故ニ其條下ニ説カソ

ごろ トハ原名 Grounder ト稱シ地上ヲ走り來ル

球ナリ受け方中 S.B. ニ次ケル最難ノ球ニシテ而シテ仕
合ニハ最重要ノ球ナリ内野手ニシテ是球ニ熟セズン
バ以テ其地ヲ守ルコト克ハス外野手ニシテ此球ニ熟
セズンバ以テ内野手ノ後援タル能ハス實ニ野球ニ志

サス者ノ練習一日モ怠ルベカラサルノ球ナリ今是ヲ
別ツテ四種トス

第一 反跳ノ距離三尺以上ニシテ跳リツゝ來ル者ナ
リ最容易ナルモノニシテ初學ノ者モ容易ニ是ヲ受ケ
得ベク復タ説明ヲ要セス

第一 一ハ三尺以内ノ反跳ヲ以テ來ルモノニシテ第一
ニ比スレバ難球ナレドモ敢テ難キニアラス是ヲ受ク
ルニハ球ノ反跳シテ其頂ニ上レル時及ヒ夫レヨリ下
ツテ地ニ墜ントスル間或ハ S.B. ナ用フ可シ忘レテモ L.S.
ヲ以テ是ヲ受ケントスルコトナカレ

第二 一ハ純粹ノごろ即チ些少ノ反跳ヲモナサスシテ

余ハ必ス S.B. ノ
ミヲ以テ受ケ
ヨト云ハント
ス
(藤野修吉)

地ヲ滑走シ來ルモノナリ是ヲ受クルニハ第三式ノ指端ヲ地ニ接シテしやくり上クルモ可ナリ又球ノ來ルニ際シ急ニ兩手ヲ以テ鷲攫ミニスルモ可ナリ

第四 ハ上ノ三者ノ混合ナリ是レ最モ普通ニシテ且ツ最モ難キモノナリ若シ野球場ニシテ滑平坦々些少ノ障碍ナカラシニハ上ノ三種ノ何レカヲ以テ終始ス可キモ事固ト地ニ關スルカ故一小石一小凹ト雖モ直チニ影響ヲ及ホシ滑走セルモノ忽チ高ク反跳シ直進セル者ハ直チニ側走シ變幻出沒所謂綠草を縫ひ頑石に激し高く南寮の庭に躍入する者ニ至ツテハ一定ノ法ヲ以テ是ヲ律シ難ク待ム所ハ敏捷ト鷹眼トノミ若



ス擁ナ後 L.F.3.B.ル取ナルニ SS

シ大反跳ヲナサバ意外ノ幸ナリ直チニ進ゾテ是カS.B.
ヲ取レヨ若シ滑走シ來ラバ是ヲ驚擾ニセヨ若シ又猛
烈無比遂ニ己レノ力ニ及ハサルヲ知ラハ双脚ヲ合シ
向臍ヲ以テ是レニ當レ或ハ片脚ヲ屈シ腹ヲ以テ是ヲ
止メヨ多少ノ痛傷何カアラソ要ハ唯臨機應變其三種
ノ何レナルヤニ應シテ急速ノ略ヲ施スニアリ變幻急
速ハ野球ノ殊色果決斷行ハ野球ノ長所ナリ而シテ此
球ヤ此性ヲ具有ス實ニ各種ノ球中最難ノ球ニシテ亦
最モ趣味ニ富ムノ球ナリ初學者是ニ熟セハ聊カ已ニ
撰手タルニ堪ヘソ
ころノ難キヤ已ニ上ノ如シ是ヲ練習スルニハ兩人相

對シテ是ヲ投ケ合フモ可ナリ又特ニ此球ヲ打タシメテ受クルモ可ナリ而シテのつくノ際ニハ常ニ先鋒ニアリテ此球ヲ期ス可シ次ニ茲ニ注意ス可キハ眼光ノ注ク所ニシテ S.B. L.S. 及ヒひろテ受クルニ方リ初學者往々終始眼ヲ球ニ注ク者アリ是レ實ニ大患ナリ其上達ヤ期ス可カラス球已ニ一間以内ニ來ラハ眼ハ直チニ其投セント欲スル目標ヲ睨ムベシ又仕合ニ方リ内野手ニシテひろテ受ケナバ直チニ I.B. 或ハ其他ノベースニ投スベキナルカ故ニ取ルト同時ニ投グルノ姿勢ヲ學ハサルベカラス是レ老手ト雖モ往々難シトスル所ナレハ初學ノ際ヨリ勉メテ是ニ留意スベシ

受け方ニ於テ最モ忌ム可キハ片手ヲ用フルコト是レナリ片手ノ利ナルカ如キハ双手ヲ用フレバ達セザルカ如キ球ニ達スルノ觀アルコトナリ然レドモ片手ノ達スル所ニ來ル球ハ身軀ヲ動かサバ双手必ス是ニ達セシ片手ナルモノハ心敏ナラス軀怠レル者ノ所爲ナリ無責任者が強テ其責任ヲ盡クセルノ觀ヲ裝ハントスルノ避逃所ナリ若シ亦幸ヒニシテ球ヲ受ケ留ムルモ是ヲ投スルニハ必ラス左手ヲ加ヘテ更メ握ラサルベカラス爲メニ機ヲ失スルコト幾何ゾ次ニ忌ムベキハ優麗嫺雅ノ態ヲ裝フテ大ニ手ヲ引クコトアリ門外漢ハ視テ以テ大ニ受け方ニ熟セリトナサンモ是レ球

チ恐ル、ノ姿勢ナリ俳優ニ類セルノ嬌態ナリ殊ニ受け方ノ第二目的タル投球ニ不便ニシテ機ヲ失スルコト夥シ受け方ニ熟セハ手ヲ引カサルモ両掌ノ間ニ球ヲ挟ミ少シモ痛ミヲ感セサルニ至ルモノナリ

(青井増補)片手ニテ球ヲ取ルコトノ忌ムベキハ已ニ論セラレタルガ如シト雖モ亦片手受ノ止ムヲ得ザル場合一二アリ例ヘバPガ或熟練ナル對手ニ出逢ハシカP其時ニ於ケル唯一ノ武器ハ右腕ト右手ノ諸指トナリ萬一ニモ右指ノ一ニ些少ノ損傷ヲ蒙ラシカ其日ノ好投球ハ殆ンド期シ能ハザルナリ然レモ左指ノ損傷ハ不便ハ不便ナリト雖モ右指ノ損傷程ニハ重キチ投球

ニ及ボサレタルナリ去レバ非常ニ注意ヲ要スル仕合ニ於テハPハ時々左手ノミチ以テ球ヲ取ルコトヲ必要トスルコトアリ之モ熟練スレバ鉄ノまくなつとニ於ケルカ如ク奇妙ニ左手ニ止ルモノナリ然シコレ等ノ必要アレバトテ初步ナルPハ決シテ上ヲ練習スベカラズ只タ指頭ヲ損傷スルノ外他ニ得ル所ナキチ以テナリ又タひろ或ハだいたくどナドノ両手ノ及バザルモノハ止ムヲ得ス指頭ノ指傷ヲ睹シテ片手ニテ之ヲ止メザルベカラズ例令指ノ二三本ハ挫折シタリトスルモ吾カ盡スベキ丈ノ任務ヲ盡シテ斃ル、ナラバ敢テ苦トスルニモ足ラザルベシ元ヨリコレハ受止ムル丈ケ

ニシテ次ノ投球ノ如何ニ就テハ考ヘザルモノナリ去レバコレハ仕合中ニ於テ止ムヲ得ザル場合ノミニ應用スベク練習トシテハ片手取ヲナスコト固ク禁ズベキモノトス

古代未ダ手袋ヲ用非ザリシ時代ニ於テハ此習慣ヲ正サシガ爲メニ老手ハ初學者ガ片手取ヲナセバ曲線ヲ畫クカ如キ熱球ヲ投シテ之ヲ苦シメ敢テ口ヨリ一言モ發セズシテ之ヲ正スコトニ勉メタリ今日ハ皆手袋ヲ用フルカ故ニコノ法ヲ用フル能ハズト雖モ常ニコノ事ヲ心掛ケ忘レテモ片手ヲ出スベカラズ

投げ合

受け方ノ各式ハ已ニ是ヲ説明セリ今進ンデ是等ノ各式ニ熟スルノ方即チ受け方ヲ練習スルノ法ヲ説カントス練習ノ法ニ種々アルコト固ヨリ言フヲ俟タス單ニ机上ノ空論ヲ聞クモ可ナリ此書ヲ讀ンデ理論ヲ逞フスルモ蓋シ其一部ナルニ近シ他人ノ練習ヲ傍觀スルモ可ナリ批評スルモ可ナリ然レトモ共ニ實行ニハアラス是ヲ實行セントセハのつくつ投げ合ノ二途アルノミ而シテ練習ニ最モ適切ナルハ投げ合ニ如クハナシ其理由ノ詳細ニ至リテハ二者ヲ通讀セハ自ラ明カナラン

投げ合ニ要スル地面ハ敢テ廣濶ナルヲ求メス幅一間

半長サ十五間ナレハ即チ足レリ兩人相對シテ投ケテハ受ケ受ケテハ投ケ或ハ高ク或ハ低ク高キニ失セハ飛ヒ上リテ受クベク低キニ失スルモノハS.B.トナスベク右ニ逸スルアリ左チ襲フアリ期セスシテ各種ノ球來リ各種ノ變式應用ヲ練磨スルヲ得メシ而シテ投ケ合ニ要スル投球ノ強弱ハ熟練ノ度ニ應スベキナレトモ必ラス初メニハ弱球ヲ投シ時ヲ經ルニ隨テ漸ク強烈トナリ遂ニ兩人滿身ノ力ヲ萃メテ投球シ其速カナル恰モ球ノ掌ヨリ直チニ反跳シ去ルカ如キニ至ツテ滿身汗ニ浴シ腰筋疲勞シテ綿ノ如クナルニ至ツテ止ム老手ノ投ケ合ニ至リテハ對戰ノ久シキ屢々二時間

ニ及ブコトアリ

始メテ野球ニ志シテ投ケ合ヲ試ムル際ニハ眼光鋭ナラス受け方式ニ適ハス掌皮堅カラス且ツ球ヲ恐ルノ情アルカ故ニ屢々指頭ヲ痛メ掌底ヲ腫ラシ堅球ニタヒ是ヲ打テバ疼痛掌背ニ徹シ延テ全身ヲ緊縛スルノ想アリテ覺ヘス熱涙ノ兩頬ヲ下ルコトアリ此時ニ方ツテ手袋ヲ想フハ人ノ情ナリ然ルニ近時手袋ノ濫用其極ニ達シ怯弱逡巡野球ノ特長ヲ没却スルコト甚シ故ニ若シ負傷シテ強テ手袋ヲ要ストセハ宜シク暫ラク割愛シテ其癒ユルヲ俟ツベシ一タヒ手袋ヲ用ヒテ是ニ依頼スルノ念ヲ生シ從テ受け方ノ正式ヨリ逸

スルノ惡癖ヲ手掌ニ生セシムルノ害ト相比スレハ暫ク中止シテ多少退歩スルノ憂ハ言フニ足ラサルナリ況ンヤ初學ヨリ手袋ヲ用フレハ終身是ヲ脱スル能ハス手袋ノ效力ヲ失スルコト半以上ニ及フ豈ニ懼レサルベケンヤ手袋ハ實ニ初學者ノ第一ニ會スベキ誘惑ニシテ是ヲ排斥シ得バ又第一ニ戴クベキノ桂冠ナリ投げ合ニ於テハ同等ノ者二人相對スルモ敢テ不可ナキモ初學者ハ數人相會シテ一老手ニ就キ交互ニ是ニ當ルヲ可ナリトス是レ老手ノ投球ハ常ニ正鵠ヲ失ハス強弱意ニ任スルカ故ニ初學者ハ正式ノミヲ以テ受クルコトヲ得ベク己レノ熟練ニ應シテ老手ノ手加減

アリテ負傷スルコト少ク且ツ初學者ノ投球ハ目標強弱常ニ一定セサルカ故ニ彼ノ老手カ變ニ應シテ様ヲ變ヘ双腕ハ風ニ亂タルノ柳條ノ如ク兩脚ハ暫クモ靜止セス全身飄々トシテ而シテ決シテ姿勢ヲ亂サス緩ナルカ如キモ嘗テ機ニ後レス電光ノ如キモ嘗テ周章セス正變ノ兩式ヲ巧ミニ應用シ難球ヲ反譯シテ常球トナシ強球ニ衝ツテ嘗テ意ニ經セサルカ如キヲ熟視セハ其得ル所蓋シ大ナリ而シテ特ニ注視スベキハ老手ノ兩眼ノ注ク所ニアリ老手ヤ強球來リ迫リテ一間以内ニ入レハ決シテ球ヲ見ルコトナク鷹眼爛々直チニ其投ケント欲スル目標ヲ睥睨スルヲ見レ實ニ

野球ノ神秘ヲ語ルモノニシテ千變萬化悉ク此變化ニ
 外ナラサルハ全編ヲ通讀スルノ際自ラ融解スル所ア
 ラシ又巳ニ初學ノ域ヲ脱シテ多少會得スル所アラバ
 勉メテ己ノ同輩ト必死ノ對陣ヲ試ムベシ斯クセハ其
 進歩駭々トシテ日ナラスシテ先輩ノ壘ヲ據スルニ至
 ラシ初學者ト挑マバ多樣多姿ノ變式ハ或ハ是ヲ學フ
 ベキモ未タ正式ヲ渾然トシテ同化セサルカ故ニ却ツ
 テ變式ニ陥ルノ患アリ況ンヤ初學者ノ球ハ率子弱ク
 シテ安逸ニ慣ルノ恐アルオヤ初學者ヲ指導スルハ
 實ニ一二老手ノ業ナリ
 投げ合ハ巳ニ論セルカ如ク受け方ノ基礎ナリ故ニ常

ニ是ヲ練磨シテ一日モ怠ルベカラス其業ヤ行ヒ易キ
 ナ以テ校内十分間ノ小憩兩日少許ノ間霽ニモ是ヲ行
 フベク黑板ニ樂書シ教室ニ囂々トシテ教師ヲ評論ス
 ル等ニ比スレバ其勝ルコト萬々生徒ハ氣力ヲ復シ校
 長ハ管理シ易キヲ喜バン敢テ對手ノ多キヲ要セザル
 カ故ニ何時ナリトモ行フヲ得ベク法科大學教授ちぢ
 ん博士ノ如キハ來客ト二人官邸前ニ投げ合ヲ試ムル
 コト屢々ナリ又冬期野球場霜ニ鎖ザレ強テ使用セ
 ハ是ヲ毀損スルノ虞アルトキハ即チ投げ合ヲ勉メテ
 來春雄飛ノ素ヲ養フベキノ好時機ナリ冬日暄温風靜
 ナルノ日南窓ノ下ニ會戰スルハ言フヲ須ヒス凍雲四

方ニ塞カリ時ニ飛散ノ逆ルヲ見ルニ窓下ニ投げ合ヲ
 催セハ指頭龜ノテ直伸セス両掌凍結シテ感覺ナシ第
 一球ヲ受クレバ塔然聲アリ石ヲ打ツカ如ク痛ノ何ノ
 邊ニアルヲ知ラス第二球ヲ受クレバ奇痛全身ニ徹ス
 兩人息ヲ吹テ凍掌ヲ暖メ三球四球稍掌ニ熱ス第十球
 ニ至リテ投球漸ク猛烈トナリ全身漸ク生氣アリ第二
 十球ニ至リテハ即チ眞ノ奮闘トナリ滿身ノ力ヲ加フ
 レハ熱球疾キコト矢ノ如ク身ヲ抽ンデ、是ヲ受クレ
 バ兩掌ニ一種ノ痒味ヲ生ス痒味生スレハ熱温已ニ上
 リ全身已ニ慣熟セルノ微ナリ何ヲ爲シテカ成ラザラ
 ノ受ケテハ返シ返シテハ受クルニ隨ツテ兩腋汗ヲ生

シ吐息蒸氣ノ如ク初メニハ上衣ヲ脱シ終リニハ襦衣
 ナ脱シ人ハ皆外套ヲ纏ヘルニ我唯兩人裸体ニシテ滿
 身ノ發汗虹ニ似タリ相對スルコト一時間熱勞シ氣竭
 クルニ及ンテ直チニ冷水ヲ以テ身ヲ拂拭シテ長嘯ス
 レハ吐息蛟龍ノ氣ヲ吐クカ如ク奇温熱中ニ充滿シテ
 春暖ニ似タリ少憩十分以テ書ヲ讀ムベク以テ數理ヲ
 考フベク以テ健啖十椀ナルベシ冬時投げ合ノ快春時
 ニ優ル蓋シ一倍

投げ合ニモ復タ仕合ト稱スル者アリ兩人相對シテ奮
 闘スルモ擊劍柔術ノ如キ種ノ仕合タルヲ失ハス然レ
 トモ亦十數人相會シテ仕合スルヲ得ベシ其法人ヲ均

分シ互ニ一人宛チ出シテ奮闘セシメ受ケ損スレハ人
 チ替ヘ多ク受ケ損セル者チ敗トス又審判官アリテ投
 球ノ正鵠チ失セル者ハ受ケ損セシ者ヨリモ投ケタル
 者チ失アリトス是レ明治二十五年中盛シニ第一高等
 中學校ニ行ハレシ者ニシテ練習ニ益アルコト甚タ大
 ニ昨二十九年國際仕合ノ撰手ハ皆此裡ヨリ出テタリ
 三式何レチ用フルモ球ノ掌ニ當ル所ハ指ノ着根掌肉
 ノ少シク突起スル所ナルチ普通トス而シテ冬期練習
 ノ患フル所ハ指ノ着根ノ脂肪チ失フテ横ニ龜裂スル
 ニアリ故ニ常ニ是ニ注意シ若シ其徵候チ見バぐりす
 りん其他胼ノ藥チ浴後ニ用フベシ

受方の教育法

受方ノ教育チナスニ必要ナル二人アリ一チ温和ナル
 性質ニシテ能ク初學者チ教育スルニ足ルモノトシ一
 チ意地悪キ亂暴者ニシテ且ツ頗ル強球チ投ズルニ熟
 練ナルモノトス乃チ前者ハ初學者チ教育シテ受方ノ
 ミチ覺エシムルモノトシ後者ハ熟練セルモノチ教育
 スルモノニシテ先ヅ「仕上ケ」チナスガ如キモノナリ
 始メ全ク受方チ少シモ知ラザルモノト雖ヒ投セラレ
 タル球ニ對シテハ必ズ十ニ一ハ取り得ル所アルモノ
 ナリ故ニ温和ナル教育者ハ勉メテ此所チ發見シテ其
 所ニノミ球チ投ケ送ルベシ然ルルハ受手ハ他人ノ投

セル球ヲ受ケ得ルヲ以テ面白味ヲ生シ益得意トナリ
 テ十ガ十之ヲ捕フルヲ得ルニ至ルベシ此時ニ至レバ
 教育者ハ九ツハ彼レガ得意ノ所ニ球ヲ送り一ツハ其
 尤モ不得意ノ所ニ投ズベシ然ルルハ調子ニノリタル
 受手ハ其受方ノ如何ニ關ラズ手ヲ出シテ攫ミ取ルベ
 シ然ルルハ此事ヲ度々スレバ不得意ノ所モ漸次取ル
 コヲ得ルニ至ルベシ斯クシテ明日ハ他ノ不得意ノ所
 ナヲ馴シ又其次日ニハ他ノ所ト進マバ遂ニ全ク不得意
 ノ所ナキ程ニ熟練スルコヲ得ベシ然ラザレバ初學者
 ハ或ハ手ヲ損シ或ハ指ヲ傷ヒナドシテ遂ニ野球ノ何
 タルヲ解セザル中ニ野球場ヨリ消滅スルニ至ルベシ

之ノ教育法ハ何邊ノ高サノ球ハ如何ニシテ取ルカヲ
 教フルヨリモ其熟練モ速カニシテ且ツ容易ナリ
 偕テ其初學者ガ進ノテ殆ンド未熟ト稱スル点ナキ程
 トナレバ第二ノ教育者ノ猛烈ナル教育ヲ受クルノ必
 要ヲ生ズルナリ仕合中身方ニ一人ノ意氣地ナシアラ
 バ全軍ノ志氣ニ關係スルコト甚ダ大ナルガ故ニ第二ノ
 教育者ハ勉メテ此邊ニ留意シテ教育スルヲ可トス即
 チ第二ノ教育者ハ技術ノ教育者ト云ハシヨリハ寧ロ
 氣風ノ教育者ト云フベキナリ去レバ第二ノ教育者ハ
 成ベク速カニ新進者ノ弱点ヲ見出スコト必要ナリ若シ
 一度コノ弱点ヲ見出サシカ百ニテモ二百ニテモ同シ

ク其弱点ヲ襲フベキナリ然ルモハ受手カ取誤テ手ヲ傷メシカ之ハ教育者ノ知ラザル所ナリ若シ又タ手或ハ指ヲ傷メテ聲ヲ發スルカ或ハ手ヲ振フカ或ハ痛メルカ如キ様子ヲナスカノ如キ時ハ教育者ハ到底對手ノ取得ザルガ如キ猛烈ナル球ヲ投付クルナリ若シ新進者ガ之ノ球ヲ恐テ手ヲ出サハランカ猶ホ一層強球ヲ之ニ食ハシムベシ投げ合ノ時ニハ聲ヲ發スルモ手ヲ振フモ志氣ニ關スルコトナカルベキモ斯ル意氣地ナシガ身方ノ撰手中ニアラバ身方ノ元氣ハ保持スルコト能ハザルモノナリ然シ平素ヨリコノ練習ヲナシ置カバ仕合中一本二本ノ指ノ損傷ノ爲メニ身方全体ノ士

氣ヲ沮喪セシムルコトナカルベキガ故ニ必要上コレ等ノ教育ハ勉メテ實行スベキナリ若シ新進者ガコノ教育ニ堪ヘ得ズシテ野球場ヨリ消滅セシカ之レ第二ノ教育者ノ欲スル所ナリ元ヨリ斯ル意氣地ナシハ學校ノ氣風ヲ代表セル撰手ノ任ヲ托スルヲ得ザルガ故ナリ
要スルニ第一ノ教育者ハ新進者ガ學校或ハ俱樂部ノ第二撰手トナルマデ位ノ教育者トシテ甚タ必要ナルモノニシテ其教育年限モ亦尤モ長シトス第二ノ教育者ハ新進者ガ第二撰手トナリ學校或ハ俱樂部ノ代表者トシテ責任ノ如何ナル邊ニ存在スベキヤナ理解シ

テ手或ハ指ノ損傷位ヲ苦シテ野球場ヨリ消滅スルコト能ハザル頃ニ及ソテ始テ手ニ掛クベキモノナリ故ニ第一ノ教育者ハ野球部撰手ノ基礎ヲ作り第二ノ教育者ハコレヲ磨キ上ケテ學校或ハ俱樂部ノ校風或ハ氣風ノ注入者ナリ之丈ケノ教育ヲナスコトナクシテ充分學校或ハ俱樂部ノ代表者トナルニ足ルモノアラバ實ニ學校或ハ俱樂部ノ幸福ト謂フベキナリ然ラザルニ若シ此教育ヲナサズシテ第一ノ教育者ノミノ教育ニ止マレバ諺ニ所謂佛作て魂入れずト一般ナラシカ

のつく

投ケ合已ニ熟スレハ時ニのつくヲ試ムベシのつくト

ハ野球場ニ於テ一人打ち方ニ熟セル者棒ヲ以テ球ヲ打テハ數人はテ受クルノ謂ヒニシテ打者ト受者トノ距離少キモ十五間遠キハ丁餘ニ及ビ打手ノ巧拙球ノ良否ニ依リテ一定セズ

のつくノ受け方ハ投げ合ト異ルコトナク唯投げ合ノ應用タルニ過キス殊ニ球勢遠方ヨリ來リテ弱ク且ツ其來ルコト稀レナルカ故ニ痛キコトナク投げ合ニ比スレハ誠ニ容易ナリ故ニ從ツテ練習ニ資スルコト少ナシ但シ遠距離ヨリ來リ又ハ非常ニ高飛スル球ニ對スルカ故ニ眼力ヲ養フノ效アリ復タひろ及ビ Direct ノ強猛ナルモノニ熟セシニハ是ヲ措テ他ニ其法アル

コトナシ
 のつくハ上ノ如ク練習ニハ大效ナキモ其快味ニ至リ
 テハ實ニ野球ノ花ト稱スベク巧妙ヲ競フノ好機會ナ
 リ嚴霜已ニ融ケテ綠草稍々萌ヘントス正サニ窓下ノ
 投げ合ヲ廢シテのつくニ其熟否ヲ試ムベキノ秋ナリ
 日影漸ク永フシテ寄宿ノ夕食後猶ホ一時間ノ餘晷ア
 リ何ゾ野球場ニ出テ、のつくヲ試ミサル打手滿身ノ
 力ヲ長棒ニ加ヘテ一揮スレハ堅球鏗然トシテ聲アリ
 疾キコト矢ノ如ク風ヲ排シ霞ヲ穿チテ青空ニ一點ヲ
 印スルノミ已ニ其頂ニ達シテ將サニ下ラントス其來
 ルハ左カ右カ前カ後カ是レ眼力ヲ要スル所ニシテ銳

眼ノ士ノ其目標ヲ定ムルハ正サニ此際ニアリ衆ニ先
 ツテ其落ツル所ニ赴ケハ天邊ノ飛鳥已ニ掌裡ニアリ
 一打一受其快言フ可カラス若シ復々秋天高ク澄ミ夕
 風體ニ可ナルノ日はヲ試ミテ夏期練習ノ結果ヲ同輩
 ニ示スモ可ナリ殊ニ試合ニ先ツテ敵味方ノ撰手相混
 シテのつくスルヲ例トスレハ多少熟スル所アリテ試
 合ニ先ツテ先ツ敵ノ膽ヲ奪フノ略ナカルベカラス故
 ニのつくナルモノハ實際ノ練習ニハ大效ナキモ其快
 味ニ富メルト試合ニ先ツテ暗ニ彼我ノ熟否ヲ角シ氣
 運ノ消長ヲトスベキモノナルカ故ニ投げ合ノ傍ヲ是
 ニ熟スルヲ可ナリトス而シテのつくハ球ハ一ツナル

ニ受ケントスル人ハ數人ナルカ故ニ争ヒノ生スルハ
 自然ノ勢ヒニシテ此ノ争ヤ即チのつくノ長所ノ存ス
 ル所ナリ他ニ來リ争フ者アラハ己レ球ノ來ルベキ目
 標ヲ定メ腰ヲ屈メ両手ヲ張リテ他ノ來リ迫ルヲ防キ
 其目標ハ必ラス高球トスヘシ是レ未熟者ノ取ルベキ
 姿勢ニシテ率子來侵ノ患ヲ防クニ至ル然レトモ己ニ
 熟シテ双手ノ働キ敏活ナルヲ自知セハ決シテ球ノ落
 チ來ル所ニアツテ球ヲ待ツノ愚ヲ學フナカレ必ラス
 他所ニアリテ球ノ將サニ落ち來ル際ニ電光ノ如ク突
 進スベシ前ニアリテ球ニ隨ヒテ背進シ己ニ目標ヲ定
 メテ待チ居ル者ヲ臂ヲ以テ排除スルモ可ナリ又ハ徐

カニ後ロヨリ進ミ球ノ來ル少シク前キニ是ヲ推シ除
 クルモ可ナリ又若シ後ろ取りニ熟セハ急ニ側面ヨリ
 両手ヲ延シ飛躍シテ中途ニ於テ球を奪フヲ最上トス
 前二法ハ若シ待チ居ル者ニシテ両手ヲ張り腰ヲ屈メ
 居ラハ容易ニ施ス能ハサレトモ横飛ハ防クニ法アル
 コトナシ横飛ニ熟セントセハ後ろ取りニ熟セサル可
 カラス己ニ是ニ熟セハ唯球ヲ見テ上ヲ見ス意ノ欲ス
 ル所手是ニ伴ヒ優ニのつく場ヲ横行シテ遺憾ナカル
 ベシ

投げ方

投げ方ハ受け方ニ次ケル重要ナル熟練ニシテ受ケ方
 ニ比スレハ練習遙カニ難ク殆ソト天性ニ由ルノ觀ア
 リ然レトモ勉メテ忘ラスノハ亦野球ニ必要ナル投球
 ニ達スル敢テ難キニモアラス投球ヲ練磨スルハ初メ
 ハ投げ合ニ於テスルニ如クハナシ而シテ其法タルヤ
 原ヨリ理論上ニ於テハ種々アル可キモP.ヲ除クノ外
 撰手ノ必ラス取ラサルベカラザル方式ハ上投ト稱ス
 ル式是ナリ其式タルヤ上腕ト肘トハ直角ヲ爲シ下腕
 ハ上腕ト可成直角ヲナスベシ而シテ此姿勢ノ整否ハ
 強テ問フ所ニアラサルモ必ラス怠ルベカラサルハ球
 ヲ投スルニ當リテ拳ハ常ニ地面ニ直立セル一平面上

強球ヲ投ゲル
 ニハ球ヲ割合
 ノ指ニテ腕
 弱ク握リ大腕
 ナ可成的大腕
 ナ弧ヲ畫ク様
 ニ廻ハシ肩ヨ
 リ出シテスル
 ノ瞬間ニ三本
 ノ指ヲ入ル可
 シ力ヲ入ル可
 (森脇茂)

ニ動クコトナリ若シ拳ニシテ一平面上ニ動カサレハ
 其球必ラス左又ハ右ニ曲リテ受クル者ヲ苦マシメ多
 クハ受ケ損セシムルコトアリ故ニ常ニ此式ノミヲ用
 ヒテ習以テ性トナシ如何ナル急劇ノ際モ以外ノ式ヲ
 用ヒサルニ注意スベシ又球ノ握リ方ハ拇指ヲ下ニシ
 テ食指及ヒ中指ヲ上ニ加フルヲ普通トシ無名指ヲモ
 加フルモ亦可ナリ而シテ近距離ニ投スルニハ指ノミ
 ニテ握ルモ可ナレドモ遠距離亦ハ強球ヲ投セントセ
 ハ深ク掌ニ密接セシメ投ルニ方リ緊握シテ投スベシ
 投球ニ於テ第一ニ注意スベキハ上ニ説明セル上投ノ
 式ニ熟スルコトナリ然レトモ更ラニ二個ノ注意スベ

キコトアリ腰ヲ用フルコト及ヒ目標ノ定め方是レナ
 リ初學ノ人往々誤ツテ投球ハ腕及ヒ肩ニノミノ事ト
 ナス是レ實ニ恐ルベキ誤解ニシテ肩ヲ痛メ腕ヲ傷ヒ
 遂ニ投球ニ堪ヘサルニ至ル皆職トシテ是レニ由レリ
 柔術相撲ハ言フヲ須ヒス擊劍短艇皆腰關節ヲ用ヒテ
 腰以上ノ軀重ヲ悉ク竹刀又ハ櫓ニ加ヘサルハナシ投
 球ニ於テモ是ニ同シク腕及ヒ肩ハ素ヨリ重要ナル部
 ニ相違ナキモ加フルニ腰以上ノ軀重ヲ以テセバ身軀
 疲勞セスシテ球勢強猛ナラン且ツ肩ハ少シク左右ニ
 動キ得ルモ腰關節ハ殆ント一平面上ニノミ動クカ故
 ニ上投ノ球ヲシテ浮躁ノ嫌ナク一平面上ニ飛ハシム

ルノ效アリ次ニ重要ナルハ目標ナリ目標ニシテ正鶴
 ヲ失センカ球ヲ受クルコト巧妙ニ球ヲ投クルコト上
 投ノ正式ニ合スルモ一モ其效ヲ奏セサルベシ故ニ目
 標ハ投球中ノ大事ニシテ自己ノ球ノ強弱及ヒ習癖ニ
 鑑ミ受け手ノ長所短所ヲ熟知シテ其法一定セサルカ
 如キモ上投ノ式ニ於テ最モ適當ナル目標ハ其距離十
 五間乃至二十間ノ間ニシテ強球ヲ投セントセハ受け
 手ノ額乃至帽子ヲ狙フベシ上投ノ強球ハ地ニ擲キ付
 クルノ傾キアルカ故ニ上ノ目標ヲ取ラバ率子受け手
 ノ胸乃至腹ニ至ルベシ是レ受け手ニ最便ナルノ所ナ
 リ然レトモ常ニ投ケ越スノ癖アル者ハ目標ヲ低クス

ベキハ固ヨリ言フテ須ヒス若シ十五間以内ナラバ直
チニ胸ヲ狙フテ投スルモ大差アルコトナシ又二十間
以外ナラバ自己ノ投球ノ強弱如何ニ鑑ミテ目標ヲ高
クスベシ

仕合ニ臨ンテ最モ投球ニ便ナルハ十五間乃至二十五
間ノ間ニシテ十五間以内ニ及ベハ下ノ注意ヲ要ス初
學ノ人往々球ハ弱ケレバ弱キ程受ケ易シト信スルモ
ノアレトモ是レ大ナル誤想ナリ熟スルニ從ヒ強ケレ
バ強キ程受ケ易キヲ發見スベシ是レ他ナシ弱球ハ受
クル者ニ慢心ヲ生セシメ且ツ緊握セサレバ指ノ小障
害ニ會スルモ直チニ反跳シ出ツルノ患アレトモ強球

ハ小障害ヲ排シ深ク掌底ニ入り來ルカ故ニ緊握セサ
ルモ脱出ノ患ヒナシ故ニ十五間以外ニ於テハ可成強
球ヲ投スベシ然レトモ十五間以内ニ於テハ強球倏忽
トシテ來ラハ受け手ハ見當チ定ムルノ餘裕ナキノ虞
アリ又弱ケレバ上ノ不便アリ此時ニ當リテハ中程ノ
球即チ校内ニ普通行ハル、球ヲ投スベシ此際ハ腰ヲ
用ヒス肩ノミヲ用ヒ目標ハ腹部ナルヲ可トス是レ普
通両手ノ在ル所ナレバナリ又遠距離ニシテ己レノ球
ノ達シ難キヲ慮ラバ強テ達セシメントシテ却ツテL.S.
トナルノ愚ヲ學フナカレ滿身ノ力ヲ加ヘテ受け手ノ
前面一間半乃至三間ノ所ニ投セヨ反跳シテ受ケ易キ

球トナリテ敵ヲ殺スコト屢々ナルベシ初學者ノミナ
ラス多少熟セルモノモ強テ達セシメントシテ却ツテ
意外ノ失策ヲ生スルコトアリ是レ反跳セル球ト雖モ
速力ニ大差ナキチ知ラサルノ罪ナリ見物人ノ嗤失チ
顧ミス力及ハサルカ如キ距離ニ於テハ必ラス此法ヲ
用フベシ

I.B.ヘノ投球ハ仕合中最モ重要ナルモノナルカ故ニ殊
ニ是ヲ練習スルモ亦無用ノ業ニアラス其法數人S.S.ノ
線上ニアリテH.B.ヨリぶろチ投セシメテ交互ニ是ヲ拾
フテI.B.ニ投スルナリ唯投球ノミナラス復以テS.S.ノ練
習ニ供スベシ此法ニ於テハI.B.ヨリ投セシメスシテH.B.

ヨリ打タシメハ更ラニ可ナリ

魔 球

P.ノ投球ニ魔球ナルモノアリ是レ打手ノ眼ヲ眩セシ
カ爲メニP.ノ機ヲ察シ時ニ臨ンテ用フルモノニシテ
P.ニ欠クベカラサル資格ナリトス分ツテ速度ニ關ス
ルモノト方向ニ關スルモノト二種トス

速度ニ關スル者 是レ實ニP.ノ最大武器ニシテ
且ツ何人ニモ容易ニ行ヒ得ヘク而シテ何種ノ魔球ニ
モ應用シ得ヘキモノナルニ又P.ノ概子遺却スル所ノ
モノナリ速度ニ關スル魔球トハ打手ニ投スルニハ何
種ノ球ナルヲ問ハス常ニ其速度ヲ變シ強猛烈風ノ如

強球ヲ投スル
ニハ拇指食指

(青井鉞男)
 強球ニ數種アリ一平面上ニ走ル者少シク弧ヲ畫ク者斜ニ下ル者等アリ如何ニ熟練ナリ打手モ三種共ニ完全ニ打テ得ルモノアラサルヘシ此内最も敵ノ苦ム所ニ依リ之ヲ投セヨ

中馬氏ノ茲ニ示サレタルモノハ其最も簡

Out Up.

In Up.

Out Drop.

In Drop.

Curveトハ球ノ方向ノ灣曲スルノ謂ヒニシテ球ノ回轉ノ方向如何ニ依ツテ其方向左右上下ニ屈曲スルヲ云フナリ是レ甚タ難キカ如キモ決シテ然ラス試ミニ十五間以上ノ球ヲ投シテ其方向ヲ精察セヨ野球ノ老手ニアラサル以上ハ其方向決シテ一平面ニアルコトナクシテ必ラズ左右ニ灣曲スルヲ見レ是レニ少シク練磨ヲ加フレハ即チ魔球ナリ其握リ方ハ人ニ依リテ一定セス要ハ唯球ニ所要ノ回轉ヲ與フレバ即チ可ナリ今參考ノ爲メニ第一高等學校撰手P.青井鉞男氏ノ常

單ニシテ有効
 ナルモノナリ
 セラレタルナ
 リ其他ニ七八
 種ノ方法アリ
 投手ノ姿勢ニ
 ナラハテ、年
 依ツテ打手ニ
 看破フル、コ
 トナク種々ノ
 所ヨリ是覺球
 ナ投スルヲ得
 ルニ至ラン
 (青井鐵男)

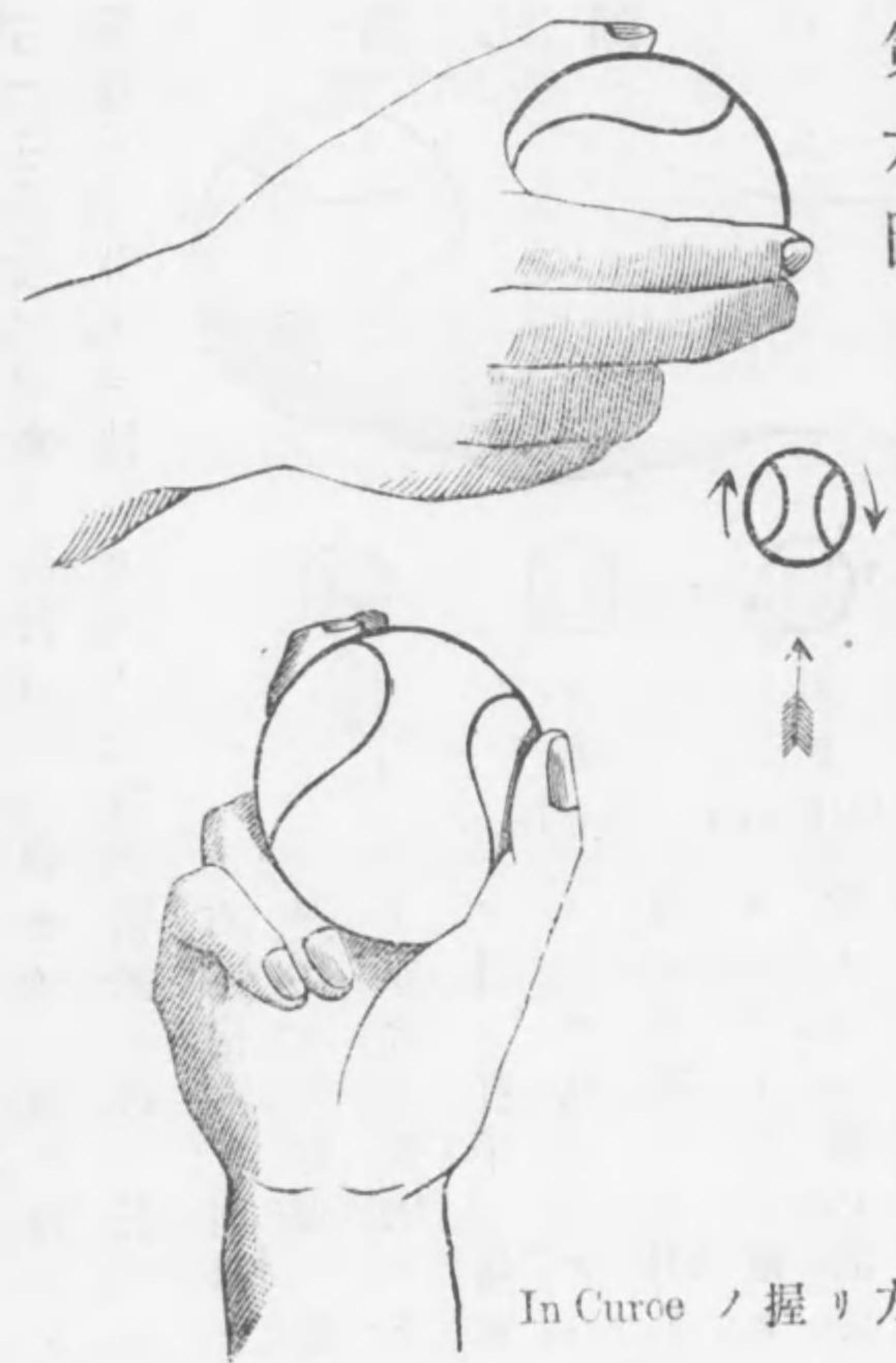
用スル握リ方ヲ圖示シテ聊カ説明ヲ加ヘン
 Out Curve 是レ右手ヲ以テ投スル P. ノ最モ熟シ易キモ
 ノニシテ其握リ方ハ圖ニ示スカ如ク拇指ト食指トチ
 球ノ直徑ヲ距テ、相對シ中指ハ少シク屈シ投スルニ
 當リテ肩ノ上ヨリ
 投ケ下シ同時ニ
 拇指ヲ緊握シ球
 ヲ是レニ摩擦シ
 テ右ヨリ左ニ向
 ヘル回轉ヲ球ニ
 加フルナリ



Out ノ投け方

當リテ肩ノ上ヨリ
 投ケ下シ同時ニ
 拇指ヲ緊握シ球
 ヲ是レニ摩擦シ
 テ右ヨリ左ニ向
 ヘル回轉ヲ球ニ
 加フルナリ

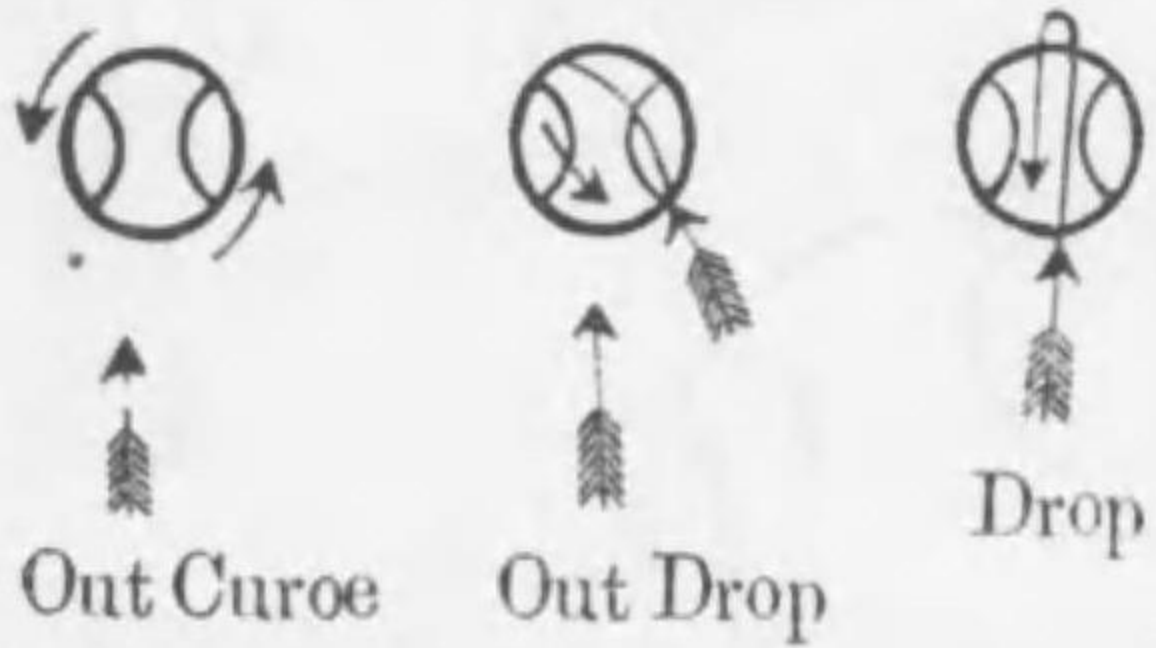
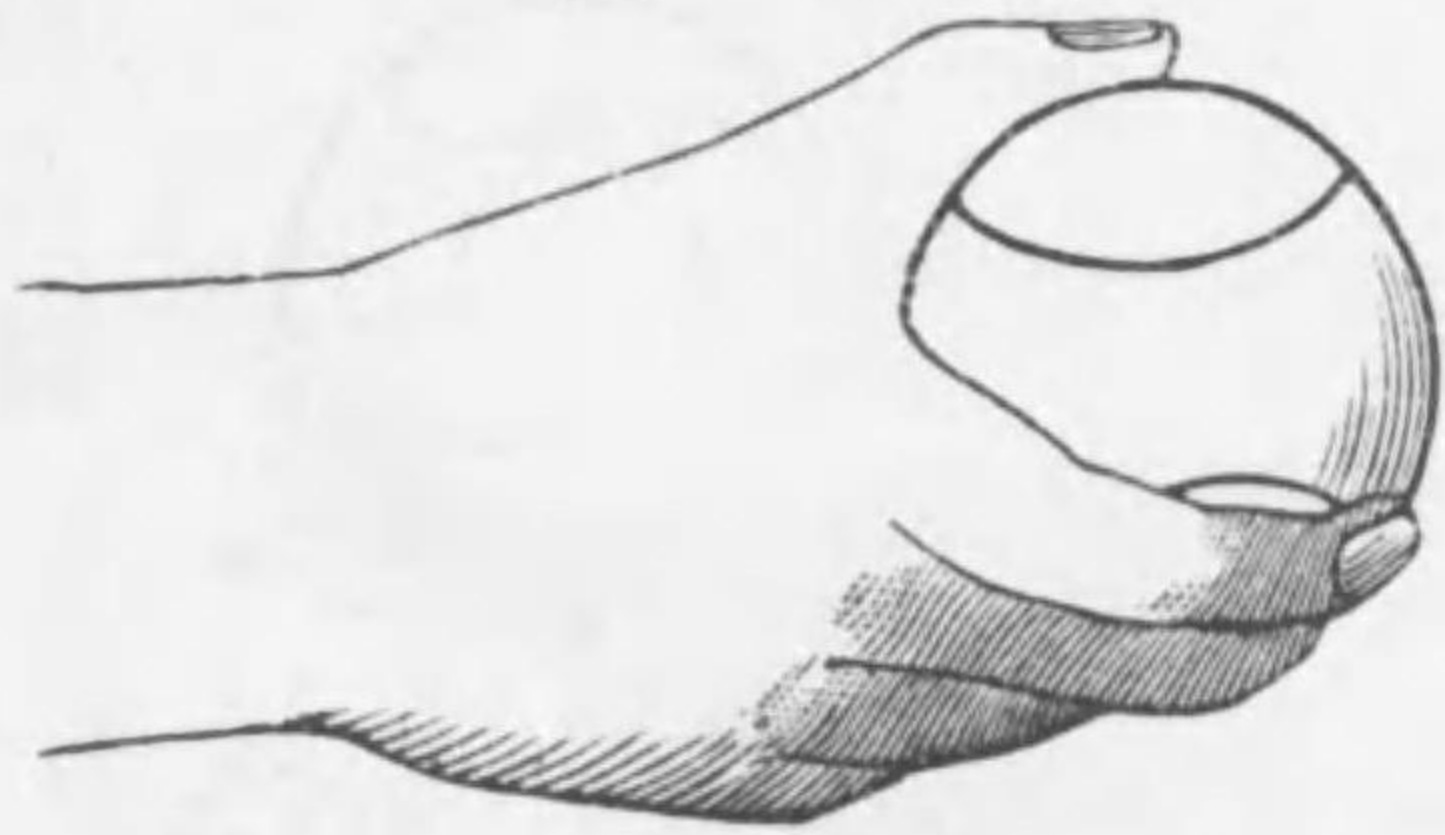
第六圖



In Curve ノ握リ方

In Curve. 是レ前者ノ反對ニシテ食中ノ二指ヲ伸ハシ腰邊ヨリ斜メニ投シテ上ノ二指ヲ緊握シ球ニ左ヨリ

第七圖



右ニ向ヘル回轉チ與フベシ此球ハ概子非常ノ強球トナリ且ツ打手ニ切迫スルカ故ニ打テハ當ルモ決シテ S.H.トナルコトナシ敵チ殺スニハ蓋シ最良ノ球ナリ

Up ハ投スルニ方リテ腰邊ヨリ Out Curve ノ握リ方ヲ以テ上ニ向ツテ投スルカ又ハ In Curve チ堅テニ肩上ヨリ投スレハ可ナリ

Drop ハ Out Curve ト全ク同一ノ握リ方チナシ三指共ニ指端ニノミ力チ入レテ投スレハ Drop 殊ニ Out Drop チ出スコト妙ナリ

其他 Out Up, In Up, In Drop 等ノ如キモ皆其名ノ如ク二種ノ魔球チ混合セルモノニシテ練磨ノ際自ラ是ヲ習得スベシ

魔球ハ P. ノ利用スベキ最良ノ武器ナリ然レトモ上ニ掲ケタル如キ公式ノミチ以テ初メテ是ヲ投シ得ベク

P. 投球ノ練磨
チ爲スニハ始
ノヨリ魔球チ
投スルコトチ
勉ムベカラス

知名ノ打手ナ
生捕スルニハ
強球ニ依ルチ
重モトス強球
ハあてハ飛ブ
モ打チテハ飛
ハサルカ故ナ
リ故ニ始メニ
出来得ル丈ケ
充分ニ強球ナ
研究シ其十分
ナルニ至リテ
始メテ魔球ナ
研究スヘシ始
メヨリ魔球ナ
投スルコトニ
ノミ意ヲ注テ
強球ナ投スル
コトヲ忽セニ
セバ遂ニ熟練
ナル投手タル
能ハサルヘシ
ト信ス
(青井鏡男)

ハ投セサルナ
頁シトス例令
ヘバ打手ニ
ノ方向ニ打タ
キント思フト
方ニ打タシメ
キ等ノ如シト
他各種ノ場合
ハ無限ナリ
(青井鏡男)

ソバ是ヲ用ヒサルチ寧ロ可ナリトス魔球ハ回轉甚シ
キカ故ニ其速度必ラス弱ク加フルニ打手ハPノ姿勢
ヲ見テ其何種ノ球ナルヤチ豫知スルガ故ニ却ツテ大
害ヲ醸スコトアリPタル者宜シク練習多年指頭ノ加
減ノミチ以テ同一ノ姿勢ト握リ方トチ以テ各種ノ魔
球ヲ投スルチ勉ムベシ現ニ青井氏ノ如キハDropノ握
リ方ヲ以テ指頭ノ力如何ニ依リDrop, Out Drop, Out Curve
ノ三球ヲ自由ニ投セリ
魔球ヲ投シ得レハPノ能事了レリトナス勿レPノ勉
ムヘキハ是ニアラスシテ已ニ説明セルカ如ク全軍ノ
士氣ヲ鼓舞スルニアリ活動ノ中心タルニアリ初心ノ

P. 其未熟ノ魔球ニノミ熱中シテ全軍トノ關係ヲ忘却
シ甚シキハ同一ノ魔球ヲ反覆シテ打手ノ乗スル所ト
ナルモノアリ是レ本ヲ忘レテ末ヲ勉ムルモノト云フ
ベシ魔球ヤ各種チ巧ミニ連鎖シ常ニ敵ノ豫想外ノ球
ヲ投シテ初メテ功ヲ爲スベキナリ

打ち方

野球ノ仕合ニ攻守ノ二勢アリ受け方及ヒ投げ方ハ守
勢ノ要具ニシテ打ち方及ヒ走り方ハ攻勢ノ主眼ナリ
走り方ハ其法複雑ニシテ仕合ノ何タルチ説明セル後
ニアラザレハ解シ難キカ故ニ遙カニ後章ニ譲リテ先

ツ打チ方ヨリ説明セシニ打チ方ニ *Batting* 及ヒのつ
 くノ二種アリ *Batting* ハ P. ノ投セル球ヲ打ツノ謂ヒ
 ニシテ即チ仕合ニ用フル者ナリのつくトハ己レ隨意
 ニ投ケテ打ツモノニシテ即チのつくノ遊ビニ用フル
 モノナリ今其重要ナル *Batting* ヨリ先ヅ説明セシ

Batting

審判官ノ令已ニ下リ敵陣已ニ形ヲ整フ單身 *Box* ニ立
 ツテ是ヲ望メバ P. 前ニ在リ我ヲ睨シテ其奇巧ヲ弄セ
 シトスルモノ、如シ内外ノ両野腕ヲ扼シテ我ヲ生擒
 セントス後ヲ顧レバ C. 手ニ唾シテ吾ノ失ヲ期スルア
 リ敵ハ九人吾ハ單身恃ム所ハ長棒ト鷹眼トノミ萬目

齊シク吾ニ聚リ氣勢ノ消長一ニ此一打ニ存ス豪膽ナ
 ラズンバ此憂懼ニ堪ヘサルナリ P. 手ヲ擧ケテ腰ヲ一
 揮スレバ熱球電ノ如シ吾顔ヲ掠メテ颯然タリ第二球
 來ル果然魔球ナリ近キカ如クニシテ復遠ク高キカ如
 クニシテ却ツテ低シ眼光爲メニ眩シ両腕爲メニ萎ユ
 打タシカ當ラサルヲ如何セシ打タサシカ審判官ノ
 嚴斷ヲ如何セシ素養アルニアラスンハ此危機ニ堪ヘ
 サルナリ抑々打ち方ハ攻撃ノ因ツテ起ル所全軍乘勝
 ノ因ツテ萌サス所ナルカ故ニ其練習最モ勉メサルベ
 カラス而シテ最モ熟達スルニ難ク投げ方ノ受け方ヨ
 リモ難キハ正サニ打ち方ノ投げ方ヨリモ難キニ均シ

而シテ其練習ハ前二者ニ比シテ興味薄ク且ツ少ナクモ四人以上ヲ要スルカ故ニ練習ニ不便ニ隨意ニ催フスベカラズ然レトモ其重要ナルコト已ニ上ニ陳セルカ如クナルヲ以テ各野球部タル者常ニ野球場ニ集リテ此練習ヲ怠ルベカラス撰手相揃フテ練習スルノ法ハ仕合ノ條ニ譲リテ爰ニハ其各心得ヲ説明セシメ打け方ヲ爲スニ當リテハ兩足ヲ可成一ニ合シ全身ノ重量ヲ可成一點ニ集中シテ自由ニ回轉スルニ便ナラシメテ敵ノ魔球ニ應スルノ地ヲナシ棒ハ兩手ヲ接セシメ左ノ小指ヲ以テ輕ク握リ無名指ヲ是ニ添へ他ノ三指ハ全ク遊離セシメ右手ノ小指ハ緩ルク握リ無名

指ハ殆ント棒ニ接セス他ノ三指ハ左手ト同シク遊離シ棒ヲ支フルハ左手ノ小指ト右手ノ食指ノつけ根トニ委シ揺セバ棒ノ自由ニ動搖スルカ如ク極メテ輕ク握ルコト恰モ擊劍ノ竹刀ノ如クニシテ球來テハ殆ンド腕關節ノミチ動カシテ棒ヲ球ト同一平面上ニ揮ヒ同時ニ十指ヲ悉ク緊結スベシ是レ強球ト魔球トニ勝レタルP.ニ對スルノ術ナリP.若シ庸劣ニシテ弱球ヲ投セバ肩ヲ用フルモ可ナリ甚シキハ腰ヲ用フルモ猶ホ可ナリ

棒ノ握リ方ニハ別ニ一方アリ左手ノ末端一寸位ヲ殘シテ握リ右手ハ左手ト復一寸位ヲ隔テ、握リ双手ヲ緊握シ棒ヲ少シク肩ニ擔ヒ又ハ直立セシムベシ(森脇茂)

中馬氏ノ茲ニ記セルハ最熟練家ノ姿勢ナリ初學ヨリシテ直チニ如斯姿勢ヲ取ルハ甚タ難ク却ツテ進歩セサランテ恐ルカ故ニ余ノ自カラ試ミ又人ニ試ミタル所ヲ述ベンニ初學ノ際ハ是非ナ間ハス唯一向ニ棒ヲ揮フコトヲ學ヒ滿身ノ力ヲ加ヘテ毎夜百棒位ヒ打チ振リ如何ナルP.ニ對スルモ唯有ラソ限リノ力ヲ出シテ打ツベシ斯クセバ自ラ棒ヲ使フコト自由自在トナリ然ル後始メテ上ニ記スルカ如キ姿勢ト打ち方トヲ用ヒ得ルニ至ルベシ(青井銀男)

初學ノ人率チ打ち方ハ腕力アルヲ貴ヒ滿身ノ力ヲ用フルヲ可ナリトス是レ復大ナル誤想ナリ而シテ初心間ノ仕合ニ於テハ敵我共ニ未熟ナルカ故ニ腕力並ニ滿身ノ力ヲ用フレハ效ヲ奏スルコト著ルシキカ故ニ益々此誤想ヲ確定スルノ傾キアリ故ニ今條ヲ分ツテ其不可ナルヲ縷陳セシ

第一 打ち方ノ目的ハ固ヨリ安全ニI.B.ヲ取ルニアリテ球ノ強弱ハ問フ所ニアラス然ルニ今滿身ノ力ヲ用ヒテ打タハ姿勢亂レ爲メニ急ニI.B.ニ走ル能ハスニ三步ノ損失ヲ來タスベシ

第一 若シ強球ヲ打ツテ幸ヒニ遠ク外野ノ外ニ飛ヒ或ハ敵ノ弱點ヲ衝カバ可ナレドモ率チ敵ノ正面ニ強球ヲ走ラシメ爲メニ己レハ未タBoxニアルニ球ハ已ニ敵ノ手ニアルコト屢々ニシテ敵ハ悠々トシテ己レヲI.B.ニ殺スベシ

第二 第一第二ハ敵ノP.ヲ非常ニ弱球ヲ投スルト假定シ強ク打テバ強球トナルベシト數歩ヲ讓リテ假

想セルモノナレトモ實際如斯ハ殆ソトアルコトナシ
 P.ハ九人中強球者ヲ撰ムヲ普通トスレハ其投球必ス
 ヤ猛烈ナリ而シテ棒ヲ揮フコト強ケレバ棒勢球力相
 扣除シテ非常ノ弱球トナルベシ故ニ輕ク打テハ球ハ
 己レノ勢ヲ以テ反跳シ意外ノ強球トナルベキハ原動
 反動ノ原則ニテ自ラ明カナラソ

第四

敵ノ正面ニ強球ヲ走ラシムルノ不利ナルハ
 已ニ言ヘリ然レトモ輕ク打テハ自在ニ球ノ方向ヲ左
 右スルヲ得ルカ故ニ強球ヲ以テ敵ノ弱點ヲ襲フノ利
 アリ

第五

敵ノP.ニシテ巧手ナラソニハ力ヲ入レ過キ

ルカ故ニ急變ノ魔球ニ應スル能ハス且ツ強球ヲ投セ
 ラルレハ到底滿身ノ力ヲ用フルノ餘地ナキモノナリ
 以上ノ理由ヲ見ハ強ク打ツノ不利ナルハ自ラ明瞭ナ
 ラソ而シテ打ち方ニ尙フ所ハ第一鷹眼爛々能ク敵ノ
 魔球ヲ鑑別スルコト、第二、打ツト共ニ直チニI.B.ニ走ル
 コト、第三、Safe Hitト稱スル敵ノ弱點ヲ襲フノ三條ナ
 リ今順ヲ追フテ説明セソ

第一

敵ノP.タル者ハ常ニ吾カ眼ヲ眩セソト勉メ
 神出鬼沒常ニ我心ヲ亂サソトス初メニ熱球直チニ吾
 顔ヲ掠メ去ルモノアラバ次ニ來ルハ想フニ Out Curve
 ナラソ先ヅ我カ横腹ヲ貫カソトシテ倏忽ニベースノ

上ヲ通過セン初メニ來ルモノ高カラバ次ハ Drop ナラ
 ノ千變萬化常ニ其球ヲ豹變セン如斯P.ニ對スルニ持
 ム所ハ唯吾鷹眼アルノミ双眼炯々常ニP.ノ兩眼ヲ睨
 メヨ熱球飛ビ來ラバ一瞥其回轉トP.ノ姿勢トヲ見テ
 其何ノ球ナルヤヲ識別セヨ後章ニ説明スルカ如ク何
 等ノP.ト雖モ遂ニ全ク打手ノ眼ヲ眩スル能ハサルナ
 リ鷹眼常ニ彼ヲ睥睨シテ彼ノ氣ヲ吞マバ何等ノP.ト
 雖モ恐ルヽニ足ラス實ニ打手ノ恐ルベキハ魔球ニア
 ラスシテ氣ヲ吞マルヽニアリ棒ヲ揮フノ弱キニアラ
 スシテ敵ノ強球ニ萎縮スルニアリ打ち方ノ秘密全ク
 此一條ニアリ

第一 直チニI.B.ニ走ルニハ已ニ説明セルカ如ク兩
 足ヲ一ニシ躰ヲ浮カシ一打シテ直チニ走ルノ姿勢ヲ
 取ルベシ

第二 Safe Hit (以下用S.H.ノ略)ト稱スルニ三種アリ第一

ハP. I.B. H.ノ三點ヨリナレル三角形ノH.ヲ頂點トセル
 角ノ等分線ニ沿フテ強猛ナラサル球ヲ走ラシムルナ
 リI.B.是ヲ取ラシカI.B.ノ空虛トナリ走り歸ルノ餘裕ナ
 キヲ如何センP.ハ取ラントスルモ及ハスR.F.是ヲ取ル
 ノ頃ハ吾已ニI.B.ニ達セルノ時ナリ第二ハS.S.ト2.B.トノ
 間ニ強球ヲ走ラスナリ然レトモ若シS.S.ニシテ2.B.ニ片
 寄り居ラバ此S.H.ハ變シテS.S.ト3.B.ノ間トナルナリ而シ

テ第一第二共ニ其球ハ餘リ猛烈ナラサルヲ要ス若シ
 非常ニ猛烈ナラシニハ己レ未タ I.B. ニ達セサルニ球ハ
 已ニ R.F. 又ハ C.F. ノ手ニアリテ I.B. ニ殺サルノ恐レアレ
 ハナリ第三ハ飛ンデ内外両野ノ間ニ落ツルモノナリ
 而シテ其球ハ低クシテ漸ク内野手ノ頭上ヲ飛越スル
 ニ足ルヲ度トス高キニ失スレバ敵ノ利スル所トナル
 ヤ固ヨリナリ此他若シ C. 綱ノ邊アラバ H. ニ落スモ S.H.
 タルヲ失ハス又極弱球ヲ 3.B. ニ向ツテ走ラシムルモ率
 子 S.H. トナルベシ若シ夫レ強球高ク飛ンデ外野ノ外ニ
 逸スルニ至ツテハ S.H. タルコト固リナリト雖モ如斯ハ
 極稀有ノ事ニシテ是ヲナサントセバ必ラス過ツカ故

ニ仕合ニ用ユベキニアラス

以上以テ正式ノ打チ方ヲ説明シ悉セリ此他ニ *Bunt Hit*
 ト稱スル一種アリ是ハ棒ヲ延ヘテ少シモ揮ラス球ノ
 來ツテ反跳スルカ如ク構フルモノナリ敵ノ P. 神出鬼
 沒ノ略チ擅ニシ我方以テ其球ヲ打ツ能ハザル時ニ用
 フルモノニシテ實ニ最後ノ手段タリ而シテ此打ち方
 ニハ一ノ制裁アルハ規則ノ條ヲ參看スベシ總テ仕合
 ニ當ツテハ正々堂々ノ心ヲ以テスベキカ故ニ打ち方
 ニ當リテハ C. ノ運動ヲ妨ケサルニ留意スベシ若シ是
 ヲ犯サバ吾部名ヲ汚シ且ツ審判官ノ嚴罰ニ處セラル
 ベシ

又仕合中ノ形勢ニ依リ Sacrifice Hit ナルモノアリ味方ノ走者 3.B. ニアラハ R.F. ニ打チ己レハ 1.B. ニ死スルモ味方チ生還セシメ又ハ高ク外野ニ飛ハシ己レ死スルモ味方ニ生還ノ機ヲ與フルノ謂ナリ然レトモ是レ良法ニアラス如何ナル場合ニ蒞ムモ常ニ S.H. チ心掛ケバ己レ生クルノミナラス必ラス味方チモ生還セシムベシ且ツ S.H. ハ味方ノ走者アリテ死者皆無又ハ一人ノ時ニノミ限レルナレバ其應用廣カラス

球チ己レノ任意ノ方向ニ打ツハ敢テ難キニアラス右ニ打タントセバ右足チ後ニ引キ球ノ己ニ來レルトキ始メテ棒チ揮フベシ中央ニ飛ハサントセハ正面シ左

ニ飛ハサントセハ左足チ後ニ引キ右足チ前ヘニシテ球ノ未タ來ラサルニ棒チ揮フベシ但シ敵球ノ強弱ニ依リテ多少ノ加減チ施スベキコト勿論ナリ

(青井増補) 球チ任意ナル方向ニ打タントメ右或ハ左足チ前後スルコトハ後章ニ於テ論ズルガ如ク不利益多キガ故ニ成ベク此法ヲ用非ザルチ可トス然レモ熟練ナル打手ナラバ左足チ前方ニ出シテ右足チ後方ニ引キ居ルモ能ク左野チ襲フコトチ得ベシ而シテ投手ノ熟練ト打手ノ熟練トガ相等キ程度ナリトスレバ中馬氏ガ述べラレタルガ如クニシテ充分ナル結果チ得ベシト雖モ打手ノ方投手ノ投球ヨリ熟練ナラバ以上ノ如キ方法



勢姿ノP.

ニテハ思フ程ノ結果ヲ得ベキモノニアラズ尤^此「敵球
 ノ強弱ニ依リテ多少ノ加減ヲ施スベキ」勿論ナリ」ニ
 重キヲ置カバ充分ナル結果ヲ得ルナラン
 理論上打タル球ノ右野ニ飛ブハ打棒ト球ト相觸ルハ
 所^丁度H.B.ノ中央ヨリ少シクC.ノ方ニ進ミタル邊ニテ
 當ルモノニシテ左野ノ方ニ飛ブハ球ノ未タH.B.ノ中央
 ニ達セザル前ニ打タレシキナリ故ニH.B.ノ中央ニテ當
 リタリトスレバP.H.B.C.F.ノ方向ニ飛ブベキナリ故ニコ
 ノ心シテ球ノ弱強ニヨリテ加減スレバ多少好結果ヲ
 得ルノ傾アラシク又々近クシテ弱キ球ヲ打ツトキハ左
 野ニ飛ビ遠クシテ強キ球ヲ打テバ右野ニ飛ベキハ勿

論ナリ

コレヨリ見レバ右野ノ方ニ Sacrifice Hit ナシテ身方
ヲ助ケント欲スレバ投球ノ少シク遠キ方ヲ打ツベシ
又ダ左野ニ打タントスル時ハ成ベク近キ弱キ球ヲ打
ツベシ而シテ近ク強キ球ハ成ベク打タザル様注意ス
ベシ之レ重ニ弱球ヲ P. ニ打チ送ルカ或ハ弱キ飛球ヲ
内野手ノ手ニ送ルニ過キザレバナリ
其他ベースノ上ニ來レル所ニテ打球ノ加減ヲナスガ
如キハ甚ダ容易ノ業ニハアラザレモ未ダ球ガ H.B. ノ中
央ニ達セザル以前ニ於テ打ツコトハ寧ロ容易ナリ然シ
球ガ H.B. ノ中央ヲ過キタル所ニテ之ヲ打タンナドノコ

ハ企テ及ブベキニアラズ故ニ之ノ代リトシテ右野ニ打
 タントスル時ハ打棒ノ先頭ガH.B.ヲ超ユル前ニ打手ノ
 握レル双手ガH.B.ヲ過グルト云フガ如キ心持ヲ以テ球
 ヲ打ツベシ斯クスル時ハ球ガ打棒ニ少シク斜メニ當
 ルガ如キ形トナルガ故ニ反射入射ノ原理ニ依テ必ず
 右野ニ飛ブベキナリ然レヒコレガ甚敷ニ過グレバ右
 方ニふわうるトナルベキカ故ニ特ニふわうるヲ打タ
 ノト計畫スルモノトシテ判定者ヨリ見誤ラレヌ様ニ
 注意スベシ

打手ノ取ルベキ姿勢 打手ノ姿勢ハ各自其欲スル儘
 ニシテ打チ飛バシ得レバ可ナレヒ少シク考フベキト

アリ即チ尤ヒヨキ姿勢トスルハ全身ヲ直立シテ体重
 ヲ右足ノミニ加ヘ左足ヲ輕ク地ニ觸レシメ何時ニテ
 モ左足ヲ踏ミ出スヲ得ル様ニナシ置キ打棒ヲ握リテ
 双手ヲ胸部ニ置キ棒ヲ斜ニ右肩ニ立テ而シテ投手ニ
 面スルニアリ之ノ姿勢ヨリスレバ左足ハ自在ニ右足
 ヨリ前方ニモ後方ニモ踏出シ得テ球ヲ打ツニ自由ナ
 ルガ故ナリ而シテ若シモ両足ヲ少シク離シテ立ツガ
 如キ姿勢ヲ取レバ両足ノ「ツマサキ」ハ必ず第二壘トH.B.
 トヲ結ヘル直線ト平行ニ置ク様ニ注意スベシコノ故
 ハ若左足ト右足トガ之ノ線ト平行ナラズシテ右足ガ
 左足ヨリ前ニ出デソカ投手ハ此打手が左野ニ打ツ癖

ノアルモノト考へ得ベシ若又左足右足ヨリ前ニ出デ
 シカ此打手ハ右野ヲ襲ハント企ツルモノナリト想像
 セラルベシ若又腰ヲ曲テ棒ヲ右肩上ニ横へ両手ヲ右
 肩ニ置クモノハ好打手ニアラザルト明カナリ去レバ
 後ノ方ニ云ヘルガ如キ姿勢ヲ取レバ投手ニ幾分カノ
 利益アリテ打手ニ幾分カノ損アリ故ニ始ニ云ヘルガ
 如キ姿勢ヲ取レバ投手ハ兩三回投球スルカ或ハ打手
 ガ一振セル後ニアラザレバ其打手が何程ノ熟練ヲナ
 セルモノナルヤヲ判断シ得ズシテ投手ニ何分カノ不
 利アリテ打手ニ幾分ノ利アリ通例コノ姿勢ヲナスモ
 ノニ對シテ投手ハ心中中々ニ苦心ヲ感ズルモノナル

のつく

ガ故ニ注意シテコノ姿勢ヲ練習スルベキヲ要ス

のつくニ至リテ始メテ満身ノ力ヲ揮ヒ腰ヲ用フベキ
 ノ秋ナリ其法一定セスト雖モ普通ナルハ左手ニ球ヲ
 取り右手ニ輕ルク棒ヲ握リ輕ク球ヲ垂直ニ投ケ上ル
 コト顔ノ高サニ及ヒ同時ニ棒ヲ輪形ニ廻ハシテ球ノ
 運動ニ應セシメ一輪形ヲ畫キ終レルトキ左手ヲ加へ
 小波動ヲナシテ調子ヲ付ケ終レルトキ球ノ正サニ腹
 ノ高サニ落チ來レルカ如クニシテ忽チ両手ヲ緊結シ
 腰關節以上ヲ動カシ全力ヲ集メテ少シク球ノ下方ヨ
 リ打チ上グベシ是レ最遠距離ニ達スルノ法ナリ單ニ

のつくノ時打
手ニ返ヘス球
ハ必リスレテ
Handニテ
打手ニ達スル
カ如ク返ヘス
バ無用ノ事ニ
シム
打手チ疲勞セ
(青井銀男)

高く打チ上ントセバ球ヲ頭以上ニ投ケ上ケ斜メニ直
下ヨリ打チ上クベシ又スルヲ打タントセバ球ノ正横
又ハ少シク上部ヨリ打ツベシ此姿勢ハ普通ノ姿勢ヲ
説ケル者ニシテ或ハ右ニ球ヲ持チ左手ニ棒ヲ取リ輪
形ヲ畫カズ直チニ右手ヲ加ヘ小波形ヲ畫キテ調子ヲ
取ルモ可ナリ要ハ初メハ輕ク棒ヲ握リ両手チ一ニ加
フルニ及ンデ一タビ調子ヲ付ケ打ツニ方リテ緊握シ
テ滿身ノ力ヲ加フルニアリ其他棒ヲ地ニ直角ニ揮フ
テ打ツノ法アレトモ大差ナキヲ以テ今略ス練磨ノ際
自ラ造詣スル所アラシ、又のつくノ際受け手ヨリ返ヘ
ス球ハ必ラス片手ニテ受クルノ熟練アルヲ要ス

打棒ノ持方ノ如何ニ關ラズ球ヲ高く且ツ遠方ニ打チ
送ルニ注意スベキニ要件アリ西洋人ナドハのつくノ
節ハ球ヲ頭上數尺ニ投ケ上ケテ其落來リテ胸部ニ達
セル片打ツチ例トス而シテ其達スル距離ハ中々遠キ
モノナレトモ吾人ヨリコレヲ見レバ彼等ハ非常ニ大ナ
ル体格ト腕力トアリテ重キ打棒ヲ自由ニ打振り充分
力ヲ盡ス上球其モノガ非常ニ飛ブ様ニ作ラレ居ルカ
故ニ遠方ニ達スルモノナルモコレハのつくノ術ヲ得
タルモノニアラズのつくニテ球ヲ割合遠方ニ飛バサ
シニハ力ヲ多量ニ用フルヲ要セザルナリ只ダ棒ノ重
サヲ利用シテ棒ノ重量ヲ球ニ的込ムル考ヘニテ打ツ

ナ最良トスコノ邊ハのつく術ヲ少シク習練スレバ直
 ニ悟リ得ベシ而シテ打棒ト球ト觸ルゝ所ハ球ガ丁度
 投ケ上ケラレテ將サニ下ラントスルトキ即チ球ガ投
 ケ上ケラレテ頂上ニ達セル瞬間ニ於テコレヲ打ツベ
 シ球ガ上運動チナセル時ハ打ベクモアラズ又タ下運
 動チナスルモ不可ナリ球ノ運動チ停止セル時ヲ以テ
 最良トス以上ノ心得ヲ以テのつくスレバふるモだ
 りれくとモふるゐるモ自由ニコレヲ打ツコトヲ得ベシ而シ
 テふるゐるニハ殊ニ妙ナリトスコノ方法ニテ打テルふ
 らゐハ實ニ高サ三十間距離六十間以上ニ達スルハ請
 合ナリコノ方法ニテ打テバ亞米利加球ヲ打ツ外人ノ

モノヨリモ飛ブコト正ニ十間以上ナラシム

對年谷論

撰手各論

已ニ練習ヲ説キ了レリ次ニ論スベキハ各撰手ノ職掌ト心得トナリ而シテ是ヲ論スルニハ人々已ニ仕合ノ諸規則ヲ諳セルニアラザレハ不可ナルカ故ニ先ヅ規則ヲ掲クルヲ至當ノ順序トナスベキカ如クナルモ規則ハ亦撰手各論ヲ知レルニアラサレハ解スベカラス二者互ニ原因結果ヲナシ何レヲ先キニスルモ可ナリ故ニ今先ツ撰手ノ職掌ト心得トヨリシテ論セヨ讀ム者規則ト互ニ參看スベシ而シテ各専門及ヒ仕合ハ已

ニ論セルカ如ク野球ノ特質トシテ姿容ト場合トニ富ミ其場合ニ會セサレハ解シ難キコト多キカ故ニ野球ニ志スノ士ハ且ツ讀ミ且ツ行ヒ熟讀玩味シテ其蘊奧ニ達センコトヲ勉ムベシ

仕合ニハ敵味方各九人ヲ要ス其位置ニ依リテ其名ヲ異ニシ其職ヲ殊ニス即チ P. C. S.S. 1.B. 2.B. 3.B. R.F. C.F. L.F. ノ九人ナリ而シテ其位置ハ野球場ノ圖ニ就テ見ルベク其職掌及ヒ心得ハ順ヲ追フテ細論セシ

Pitcher }
Catcher } Battery.

Short Stop.

Base Men.

{
 First Base Man.
 Second Base Man.
 Third Base Man.

In Fielders.

Right Fielder.

Center Fielder.

Left Fielder.

Out Fielders.

備考 1.B. 2.B. 及 ヒ 3.B. ハ内野手タルト同時ニ復 Base Manタル特殊ノ職掌アルナリ又外野ノ左右ハ C ヨリシテ云フナリ

Battyer

是ハ全軍ノ中堅全場ノ鎮鑰ニシテ球ノ常ニ存スル所
 動機ノ伏スル所ナルヲ以テ勝敗ノ決其一半ハ是ニ存
 ス慎重精撰任命其人ヲ慎マサルベカラス任ニ是重寄
 ニアル者粉骨齏身以テ全校ノ重望ニ副ハサルベカラ
 ス Battery ニシテ勇氣ナカラシカ全軍ノ士氣全ク沮喪セ
 ヲ Battery ニシテ有效ナラサシカ全軍ノ奮勵一モ其
 效ナカラシ Battery ニシテ調和ヲ欠カンカ全軍ノ一致
 運動爰ニ崩潰セン其任ヤ重ク其業ヤ難シ誰カ身ヲ挺
 シテ此難關ニ當ラントスル者ゾ氣ハ以テ敵ヲ屈セル
 ニ足り勇ハ以テ敵ヲ伏スルニ足り略ハ以テ變ニ應ス
 ルニ足りテ始メテ此重任ヲ完フシテ遺憾ナカルベシ

誰レカ身ヲ挺シテ此難關ニ當ラントスル者ゾ是レ實ニ甚ダ難シ然レトモ彼モ人ナリ吾モ人ナリ勉メテ怠ラズンバ此難關ニ當ル亦能ハサルニアラサルナリ但シ人ニ好嫌アリ性ニ適不適アリ野球ニ志サス者強テ是ニ志サハルモ亦他ニ綽々トシテ桂冠ヲ戴クノ餘地ニ乏シカラス全軍ノ中二三ノ士ニシテ是ニ志サス者アツテ下ニ論スル所ヲ熟讀翫味セハ Battery ノ一員トシテ名ヲ成スニ至ラン

Battery 練習

P. ト C. トハ二人ニシテ一人ナリ異昧ニシテ同心ナリ此二人ハ技術ニ於テハ固ヨリ相提携シ私交ニ於テモ

亦親昵シ互ニ其強弱習癖ヲ熟知セシコトヲ要ス P. 若シ其術ヲ練習セントセバ C. ハ是レカ對手トナリ魔球ヨリ熱球ニ至ルマデ強弱屈折ノ度ニ慣熟シ P. 何ノ姿勢ヲ取ラバ何ノ球ヲ投スルヤハ期セスシテ C. ノ兩手自ラ是ニ應スルノ癖ヲ養ヒ P. モ亦 C. ノ強弱習癖ヲ知リテ其 2.B. ニ投スルニ方リテ其得意トスル所ハ高球ニ受ケシ者カ將々中球カ若シクハ低球カ Out Curve 對スル習癖ハ如何 Drop ハ其好ム所ナルヤ否ヤ常ニ相攻究スルヲ怠ラス敵眼ヲ幻スルノ法好機ヲ通スルノ暗號常ニ相熟スルヲ要ス練習斯ノ如クンバ全軍ノ陣形ハ如何ニ亂ル、モ二人ノ者ハ常ニ整々トシテ其ノ責

ヲ完フシ必ナラス狂瀾ヲ已倒ニ支フルノ大功ヲ奏セ
ン

Pitcher

内野ノ中心ニ立チ勝敗ノ一半ニ任ス仕合ノ依ツテ始
マル所萬目ノ齊シク注ク所打手ハ思チ凝ラシテ吾ノ
略ヲ探ラントシ審判官ハ眼ヲ皿ニシテ吾ノ違則ヲ監
シ而シテ走者ハ常ニ吾ノ隙ヲ窺フ一舉手一投足ノ微
ト雖直チニ衆目ヲ聳カシ彼我ノ形勢ニ關スP.タル
者亦難カラスヤ今其心得ヲ細論スルニ方ツテ分ツテ
打手ニ對スル心得、走者ニ對スル心得、味方ニ對スル心
得及ヒ *Fielding* ノ四種トスルヲ便ナリトス

打手ニ對スル心得 是レ蓋シP.ノ職掌中ノ最要
ナル者ナリ打手ハ猿臂長棒ヲ持ンテ吾ノ圍ヲ潰サソ
トシP.ハ健腕ト謀略トヲ用ヒテ彼ヲ生擒セントス決
スル所ハ氣ニアリ勉ムベキハ彼ノ膽ヲ奪フニアリ双
眼炯々先ヅ彼ヲ一睨セヨ熱球一番彼ノ顔面ヲ狙フテ
心膽寒カラシムルモ亦一略ナリ然レトモ其球猛烈ナ
ラズンバ却ツテ *Dead Ball* ノ利ヲ與フベシ相尋テ魔球
ヲ投スルモ亦一略ナリ然レトモ魔球ハ其勢必ス弱シ
同一ノ魔球ヲ反覆セハ却ツテ敵ノ利スル所トナラソ
故ニ魔球ト熱球トノ調和ハ常ニP.ノ技術ノ最要ナル
モノニシテ敵ニヨツテ其調和ヲ變セサルベカラス是

然レドモ多少
ハ依ルベキ所
ナキニモア
ズ、打手ノ姿
勢、棒ノ運動
等ニ依リテ熟
否ヲ知リ又タ
其人ノ癖ヲモ
知リ得ベキナ
リ
(青井鏡男)

一律ヲ以テ律スベカラス練習多年自ラ覺ル所アルヲ
要ス若シ潛心講究シテ敵ノ強弱ノ點ヲ熟知セハ略ノ
施シ易キ固ヨリ言フテ須ヒス名手ニ至レハ始メ全ク
相識ヲサルニ仕合中直チニ敵ノ各人ノ強弱ノ點ヲ發
見スルノ明アリ此明ヤ口以テ云フ能ハス筆以テ記ス
ル能ハス各自ノ自得ニ任スルノ外ナキナリ而シテP.
ノ常ニ牢記シテ片時モ忘却スベカラサルハ敵ヲ生捕
スルハ己レ一人ノミナラス内外ノ両野手手ニ唾シテ
己レノ後援ヲナスコトナリ故ニ必ラスシモ三度振リ
ヲ取ルヲ要セス唯敵ヲシテ自在ニ其欲スル所ニ打タ
サラシムレバ即チ足レリ初心ノP.屢々此注意ヲ忘レ

C. 打困シメ且ツテ Ball 演ス實ニ慎シムベキナリ
投手が打手ニ對シテ先ツ第一ニ行ハザルベカラザル
ハ眼光ノ爭(瞰合ノ)ナリ之ニ次テ打手ヲ記憶スベキ
ト又タコレニ次テ打手ノ姿勢ヲ見ルコト之レナリ今ヨ
リ次チ追フテコレヲ説明セシ
眼光ノ爭(或ハ瞰合) コレハ全ク野球ノ技術ニアラザ
ルモ投手其人ノ心得トシテ最モ面白キコトナリ誰シモ
互ニ能ク知合テ對談スル件ト雖モ絶ヘズ眼ト眼トチ
見合セテ對談スルモノ稀ナリ例ヘ時々眼光ト眼光ト
ノ衝突ヲ來スト雖モコレハ只數秒時ニ止マル者ニシ
テ能ク三十秒ニ達スルモノハ甚々稀ナリ殊ニ長者ニ

對シテハ長者ヨリハ能ク劣者ヲ凝視スルヲ得ルモ劣者ヨリ之ヲ凝視スルヲ能ハザルモノナリコレハ我國古來ヨリノ教育ノ然ラシム所カ故ニ野球場ニ於テ投手ト打手ト眼光ノ爭チナスモ僅カニ十秒時カ長クモ三十秒ニハ達セザルベシ今投手ト打手トガ敵合チナセル間ニ若シ先ニ打手ノ方眼光チ他ニ轉ズレバ打手ハ勝チ投手ニ制セラレタルナリ而シテ大概ハ三度振ノ醜ヲ演ズルカ或ハ弱球チ内野手ニ送ルニ過キザルベシ若シ又タ投手ガ先ニ眼ノ位置チ轉セシカ打手ノ勝テルモノニシテ投手ハ三度振チ取ル能ハザルノミナラズ必ラズ遠方ニ打飛サルモノナリ然レモ打手

ニハ何時投手カ投球スルヤ知り得ザルチ以テ多少ノ苦心ナキ能ハス故チ以テ大概ハ勝チ投手ニ制セラレ打手ハ眼チ轉ジテ己レガH.B.ヨリ何程隔リ居ルヤナドチ見ルモノナリ故ニ特ニ此邊マテニ注意セル投手ハ能ク敵チ制スルヲ得ルナリ故ニ打手モ投手ガ斯ルヲチナスチ見レバ先ヅ始メニヨクH.B.ヨリノ距離チ計リテ立チ投手ノ眼チ見離スベカラズ而シテ投手ハ一分以上何モナスヲナクシテ球チ持テ其位置ニ立チ居リ能ハザルガ故ニ今回ハ投手ニ弱味チ生ジテ打手ノ方勝利チ得ン若シ敵合ノ勝敗定マラヌ中ニ投手ガ投球スレバ勢ハ互角ナリコノ言實ニ愚ナルガ如シト雖モ

投手術以外ノ術ニシテ中々ニ成効セル經驗アルモノナルガ故ニ留意シテ練習實行スベシ必ズ面白キコトナルヲ發見セシ

打手ヲ記憶スルコトコレハ如何ナル打手ノ次ニハ如何ナル打手カ來ルヤト云フコトヲ記憶スルナリコレヲ記憶スルコトヲ練習セズンバ敵ノ作レル打手ノ順序ガ如何様ナルヤヲ知ルト雖出ヅル人毎ニ新ラシキ人ノ様ニ覺エテ倒底吾カ術ヲ實行スルヲ得ザルナリ然レ能ク之ヲ記憶スレバコノ打手ノ次ハ拙劣打手コノ次ハ老練打手ナド、思ヒ出スガ故ニ如何ナル考ノ秘術ヲモ應用スルコトヲ得ベキナリ之ヲ記憶スルニハ

敵手カ皆知人ナラバ甚ダ容易ナルモ全ク見モ知モセザルモノニ出逢フハ其人ノ衣服ノ色或ハ顔面ノ癖身体ノ態度等ニヨリテ記憶スベキナリ乃チ赤キシや一ツノ次ニハ頭ニ禿アルモノ其次ハ黒キ顔ノモノ其次ハ何々ト記憶スレバ充分ナリ斯クシテ打手ノ順序ヲ記憶スルト同時ニ其打手ノ強点弱点ナドモ充分ニ記憶スルヲ要ス即チ黒顔ノ人ハ低キ球ヲ打ツ能ハズトカ頭ニ禿アル者ハ Out Curve ハ能ク打飛スモ Drop ハ全ク打ツコト能ハズトカ云フナリ此記憶ニシテ充分ナラシメバ Full Basis トナルモ敢テ驚クコトヲ値セザルモノナリト云フヲ得ベシ

姿勢ヲ見ルコト 投手カ投球スル前ニハ必ズ打手ノ姿勢ニ依テ大凡ソ如何程位ノ打手タルベキヤ又タ何レノ方向ニ打ツベキヤノ判断ヲナスベシ先ツ打手が打棒ヲ右肩上ニ横ヘ双手ヲ右肩ニ置キ腰部ヲ屈スルモノハ打チタリトテ驚クニ足ヲザルモノナレバ安心シテ投球スベク右足ガ左足ヨリ前ニアレバ左野ニ打ツベキ癖ノモノ左足ガ右足ヨリ前ニアレバ熟練ナル打手カ或ハ右野ヲ襲フモノ H.B.ニ近ク立ツモノハ近球ノ得意ナルモノカ或ハ全ク拙劣ニシテ四球ヲ利セント欲スルモノ遠ク立ツモノハ遠球ノ得意ナルモノナドト大体ノ判断ヲナシテ之ニ應ズル様徐ロニ其施スベ

キ策ヲ考ヘテ投球スベシ其施スベキ策ノ如キハ讀者ノ研究ニ任セテ他日將ニ語ル所アラントス
 上述ノ三要点ハ投手カ打手ニ對シテヨリ大凡ソ一分以内ニ行ハザルベカラザルガ故ニ平素ヨリ人ノ仕合ヲ見テ其打順等ヲ記憶スルコトヲ練習シ且ツ常ニ強弱点ヲ發見スルコトニ勉ムレバ一兩年ニシテ相當ナル投手トナルコトヲ得ベシ
 右ノ外猶甚タ必要ナル且ツ面白キ秘密アルモ之ヲ實行スル本人ガ校友及ビ外來者ヨリ人物ヲ誤ラルヽノ恐アレバ敢テコヽニ云ハズ他日野球ノ進歩ト共ニコレヲ語ラン

走者ニ對スル心得 是レ實ニP.最苦心ノ際ナリ
 吾軍敵ノ打手ヲ逸シテ走者タラシメバ全軍ノ配置少
 シク變セサルヲ得ス而シテ彼走者其熟達セル者ハ常
 ニ次ノベースヲ盜ントス管ニ盜マントスルノミナラ
 ス擬勢ヲ張り虚喝ヲ施シP.ヲ妨害シテ味方ノ打手ヲ
 助援セントスP.タル者打手ニ對スルノミニ注意セシ
 カ擬勢ハ實勢トナリ虚喝ハ事實トナリテ次ノベース
 ヲ盜マン然ラハ走者ニ注意セシカ打手ニ投スル球懈
 慢シテ其欲スル所ニ強球ヲ打タレンP.ノ熟否ヲ驗ス
 ル實ニ此際ニ若クハナシ走者ノ虚喝ヲ逞フスルハ其
 1.B.ニアル時ヲ最甚トス常ニP.ノ隙ヲ窺ヒ少間アレハ

則チ乗シテ2.B.ヲ盜マントスP.タル者常ニ是ニ留意シ
 走者若シ1.B.ヲ離ルハコト遠キニ失セバ直チニ1.B.ニ投
 セヨ彼レ事ノ逼レルヲ見テ必ラスヒラン是レ即チ乗
 スベキノ秋ナリ1.B.ハ直チニ球ヲP.ニ返ヘシP.ハ走者
 ノ未タ直立スルニ違アラサルニ打手ニ投スベシ2.B.必
 ラス安全ナラン是レ實ニ一瞬息違ノ間ナリ打手ニ投
 スルノ球正鵠ヲ失セザレハ即チ幸ナリ練習多年手、心
 ト相隨フ者ニアラザレハ能ハス初心者ニシテ妄リニ
 是ヲ行ハハ打手ヘノ投球ハ固ヨリ1.B.ヘノ球ヲ誤リテ
 球ハ1.B.ヲ過キテ却ツテ敵ニ2.B.ヲ獻スルコトアリ慎マ
 サルベケンヤ此失ヲ避ケントセバ1.B.ニ投スル真似シ

テ走者ヲ劫カシ直チニ打手ヘ投スレバ率子其目的ヲ達スベシ如斯際P.ノ鷹眼ヲ要スルハ走者ノ躰勢如何ヲ見ルニアリ躰勢トハ其全身ノ衡權直立セルカ2.B.ニ向ヘルカ1.B.ニ向ヘルカニシテ若シ2.B.ニ向ハハ之ヲ變シテ1.B.ニ向フニ意外ノ時ヲ要スル者ナルカ故ニ1.B.ヲ離ルハコト近キモ之ニ投セハ率子生捕スルヲ得ベシ躰勢ノ觀察ハ仕合中實ニ興味アルノコトニシテ單ニP.ニ限ラス人々ノ共ニ注意スベキ所ナリ

上ノ注意ハ走者1.B.ニアル時ニ限レルニアラス何レニアルモ皆同シキモ1.B.ニアル時殊ニ其必用ヲ認ムルナリ次ニ二人以上ノ走者例令ヘバ2.B.ト3.B.トニアルトキ

ハ2.B.ニアル者ハ率子遠クベイスヲ離レ居ル者ナレバP.ハ2.B.ニ投シ又ハ自ラ球ヲ持チテ其走者ヲ3.B.ノ方ニ追跡シ3.B.ニアル走者ヲシテ餘儀ナク其ベイスヲ離レシメテ遂ニ3.B.トH.トノ間ニ挟ムベシ又已ニ一人ノ走者アルニ打手ノ打テル球P.ノ前ニ來リテP.是ヲ受ケナバ直チニ1.B.ニ投スルノ愚ヲ學ブベカラス走者ハ此一打ヲ利シテ次ノベイスヲ奪ハントスルモノナレバ球ヲ握ルト同時ニ其走者ヲ挟ムノ姿勢ヲ示シテ是ヲ舊ノベイスニ追ヒ込ミ然ル後1.B.ニ投スルモ優ニ打手ヲ殺スニ足ラン併シ走者ニシテ是ヲ威嚇スルモ猶ホ且ツ退カズンバ是ヲ挟ムモ可ナリ何トナレバ打手ヲ

殺スヨリモ 2.B. 又ハ 3.B. ニアル者ヲ殺スハ却ツテ味方ニ利アレバナリ

投手ノ横眼ハ充分ニ走者ヲ畏縮セシムルニ足ルモノナルガ故ニ餘リ身体マデモ横ニシテ走者ヲ注視スルノ必要ナキナリ只ダ少シ首ヲ動ス丈ケニテ充分ナリ然レモ第二壘ノ走者ヲ見ルニハ是非餘程首ヲ廻轉セザレバ見得ザルガ故ニ此所丈ケハ C. ニ暗號セシムルヲ可トス又タ真直ニ H.B. ノ方ニ向ヘル時ハ投手ノ眼ニハ 1.B. 3.B. 共ニ見得ザルモ頭ヲ前ニ垂レテ地ヲ見ル様ニシテ横目ヲ使ヘバ眼界廣クナリテ 1.B. 及ビ 3.B. 共ニ眼中ニ入ルモノニシテ少シモ首ヲ廻轉スルヲ要セザルナリ

時トシテ敵ノ打手カ調子ニ乗リテ球ヲ打飛ハシ投手ガ如何ニ苦心スルモコレヲ殺スコト能ハサルノミナラズ全野ヲ搔亂セラルヘトアリコノ時ニ於テハ投手ハ速カニ決斷ヲナスコトヲ要スルナリ重ニコノコトノ起ルハ敵ニ走者ヲ生シテ投手ガ走者ヲ苦シメ且ツ打手ヲモ殺サント欲スルガ故ニ其投球ニ懈怠ヲ生ズルガ爲メナリ故ニ如何ニ苦心スレバトテ両ナカラ全キコトハ欲ストモ能ハザルコトハ明カナリコノ時ニ當テハ速カニ決斷シテ投手ハ走者ヲ生還セシムルハ止ムヲ得ズトシテ走者ニ留意スルコトヲ全ク止メテ全力ヲ打手ノ

ミニ加フベシ然ルキハ全ク多クノ生還者ヲ生セザル
 間ニ能ク之レヲ制止スルコトヲ得ベシ實ニ敵ニ乗セラ
 レタルヤ否ヤヲ判断シコレヲ實行スルニ至ルマデハ
 餘程ノ練習ヲ要スベキナリ只タコヽニハ注意トシテ
 記シ置クニ止マルノミ此事以上ハ異日記スル所アル
 ベキモ各投手カコヽニ留意シテ練習セラレ以テ其秘
 密ヲ發見セラレシコトヲ希望スルモノナリ
 以上ハ其大略ナリ走者トP.トノ對抗ハ實ニ仕合中ノ
 大觀ニシテ千變萬化殆ント一定ノ規矩ヲ定メ難シ上
 ニ掲ケル二三例ヲ熟讀翫味セハ自ラ其機要ヲ解シ神
 出鬼没ノ略ヲ出タスニ足ラシ要ハ實行ト潛考トニア

リ

味方ニ對スル心得

上來屢々論セシガ如クP.ハ

全軍ノ中心ニ立チ萬目ノ注ク所ニシテ氣運消長ノ地
 ニアル者ナレバ常ニ全軍ノ勇氣ヲ保ツニ注意セサル
 ベカラス先ツ其風采ハ常ニ揚ラシコトヲ欲ス庶幾ク
 ハ全軍ノ中心タルニ愧チサラン Time (故障アリテ暫時
 中止ノ令ナリ)
 ノ令アラバ直チニS.S.又ハベ―すニ投センコトヲ欲ス
 久シク球ヲ受ケス手掌冷却セルニ卒然トシテ球ニ會
 スレバ如何ナル老手モ失チ免レサルカ故ニ不絶球ヲ
 手ニシテ掌温ヲ保タシメンガ爲メナリ而シテ必要ニ
 際セスノハ勉メテ尋常ノ球ヲ投シテ味方ニ失ナキヲ

勉ムベシ初心ノP.往々其強球ニ誇リテ無用ノ時ニ自
ラ術ハントシテ強球ヲ投シテ味方ヲ困シマシムル者
アリ思ハサルノ甚シキナリ味方ノ返ヘス球ハ如何ナ
ル難球モ勉メテ是ヲ受ケンコトヲ欲ス全軍ノ中心ナ
レバTime中ノ一失モ暗ニ士氣ニ關スルコト大ナリP.
タル者投げ方ノミナラス亦受け方ニ熟達スルハ實ニ
其職責ノ一部ナリ

Fielding トハ受け方投げ方ハ固ヨリ場合ニ應シテ
各種ノ業ヲ爲スヲ總稱セルモノニシテ自ラ一門ヲナ
セリP.ノFielding 中受け方ニ於テハ他ノ内野手ト異
ナルコトナク爲ルニ會スルコト最モ多ク其最難トス

ル球ハ高ク上レル球ニシテ此球ハ棒ノ球ノ下部三分
一以内ノ所ニ當レル球ニシテ其旋回甚シク弱キカ如
クナレドモ掌ニ入りテ直チニ緊握セザレハ跳出スル
ノ恐アリ此種ノ球ハ地ニ墜ツルヤ直チニH.ノ方ニ反
跳シ返ヘルノ癖アルカ故ニ若シ受クルニ難シト見バ
強テ捕ヘスシテFoulタラシムルモ亦一策ナリ次ニ注
意スベキハ爲ルノ少シク遠キ者ニ強テ片手ヲ出サ、
ランコト是レナリ片手ノ害ハ已ニ論セリP.タル者両
手ノ及バザルニ強テ片手ヲ出サバ多クハ是ヲ逸スル
ノミナラス爲メニ球ノ方向ヲ變シテ後ヲ擁セルS.S.
2.B.ノ意外ノ方向ニ走ラシメテ却ツテ敵ヲ生カスベシ

投手ノ打手ニハ
投ズル前ニハ
必ラズ全軍ノ
整否ヲ見又ハ
走者ノ運動如
何ナク見シテ
後ニ投スベシ
是レハ注意シ
忘ルハトキハ

P.ハ單ニ其位置ヲ守ルノミナラス又他所ニ轉戦セザ
ルベカラサルコトアリ第一ハH.B.ナリ此關所ハP.トC.
トノ共有ニシテC.若シ球ヲ後ニ脱シテ之ヲ拾ハント
シ走者3.B.ニアラバP.ハ直チニ走ツテH.ヲ守ラサルベ
カラス若シ敵ヲ3.B.トH.トノ間ニ挟マバP.ハ直チニC.
ノ後繼タラサルベカラスH.ニ於ケル失策ハ實ニP. C.
共ニ責チ負フベキナリ次ハI.B.ヲ擁護スルコトニシテ
よろ若シI.B.ノ定位置ヨリ少シク右方ニ走リI.B.是ヲ取
ラントセハP.ハ直チニI.B.ニ走リテ代リテI.B.タルベシ
又R.F.ノI.B.ニ投スルトキハP.ハI.B.ノ後ヘニアリテ萬一
ニ備フルヲ萬全ノ策ナリトスレトモ此ノ場合ニハI.B.

不利ナルコト
多シ
(青井銀男)

ニ失アルモ大患ナク却ツテP.ヲ疲勞セシムルノ虞ア
ルカ故ニ強テ之ヲナサハルモ可ナリ
又タ投手カ打手ニ投球セル間如何ナル理由カ球カ同
ジ間當ニノミ走ルコトアリ例ヘバ近ケレバ何回投ジテ
モ近ク遠キモ亦同ジ斯クナリタル時ハ如何ニ注意チ
加フルモ殆ソド之ヲ避クルコト能ハザルナリ此時ニコ
レヲ避ケンニハ只タ投ケ方ヲ變ズルヨリ外ナキナリ
即チ始メOver Throwニテ此癖カ始リシナラバSide Throw
ニ變ズベクSide Throw ヨリ起リタルキハOver Throwカ
Under Throwニ變化スベシ然ルキハコレヲ避ケ得ルノ
ミナラス投球兩三回ニテ元ノ投ケ方ニ戻ルモ正確ナ

ルモノヲ投ジ得ベシ

投球ノ秘密 魔球ノ投げ方強球ノ投げ方等ハ已ニ前條ニ註セリ然レモ今ヨリ投手トシテ必要ナク投球法ノ二三ヲ述ベン元ヨリコノ事ハ各自ノ熟練ト經驗トニヨリテ變ニ臨ミ機ニ應シテ其變化窮リナク且ツ一定シタルモノニアラズト雖モ只タ予カ經驗上甚タ利益セリト思ヒタルヲ参考ノタメニ書付クルモノナリ去レバコレヲ以テ一定則トナス勿レ

魔球ノ利用 初學ノ投手ハ漸ク一二ノ不完全ナル魔球ヲ投ズルヲ覺ユレバ已ニ鬼ノ首ニテモ獲タル如ク無暗ニコレヲ投ズルモノナリコレ實ニ思ハザル

ノ甚敷キモノナリ實ニ投手カ魔球ヲ投ズルハ魔球ニテ打手ヲ若ムルニアラズシテ只ダ魔球ヲ用ヒテ自己ノ失策ヲ補ヒ且ツ其失策ヲ利用シテ魔球ヲ應用スルナリ然ルニ初學ノ投手ハ考ヘテコノニ置カザルカ故ニ折角人ヨリ優リタル魔球ヲ投ジ得ルモ無意味ニ投球スル投手即チ投球器械ノ如キ投手ノタメニ思ハザル失敗ヲ招カシメラル、¹アルナリ今コレヲ例ニヨリテ説明センカ試ニ投手ノ投ジタル強球カ高キニ過ギンカ判定者ハ *A Ball* ナ宣告センコノ時ニハ次ノ投球ハ如何ナルモノヲ送ランカノ考ヘハ第一ニ投手ノ頭腦中ニ起ルベキ問題ナリ *Out Curve* 可ナランカ時ニ

或ハ可ナラシク然レモ前ノ球ニ對シテハ無意味ナリ
Curve 可ナラシクカコレモ亦同シ最後ニ Drop 或ハ Out
Drop ナ投センカコレ實ニ當テ得タルモノニシテ魔
球ヲ利用シテ自己ノ失策ヲ補ヒ失策ニ依テ魔球ヲ利
用スルモノナリ即チ始メノ球カ高カリシカ故ニ同様
ナル高サニ Drop 或ハ Out Drop ナ投ズレバ打手ハ又々高
シト安心シ居ラシク然ルニ其球ハ中道ニシテ落チ Strike
トナレバ實ニ打手ノ虛ニ乗ズルガ如キモノナリスノ
如ク若シ投手ガ近キニ過グル球ヲ投セシ時ハコレヲ
利用シテ Out Curve ニテ成效スベク遠キニ過グル球ヲ
投セシキハ In Curve ナ投ズルカ如クスレバ能ク魔球

ヲ以テ失策ヲ補ヒ失策ニ依テ魔球ヲ利用スルヲ得ベ
キナリ

打棒ノ進行ヲ見テ投球スルト 投手ガ強球ナ
ドニテ打手ヲ試ミタルトキ打手カ一振スレバ大凡ソ
如何ナル打手ナルヤハ想像スルヲ得ベシ若シ打棒ノ
運行カ球ヨリ速カナレバコレ恐ルベキ敵ナルガ故ニ
注意シテ其打手ノ弱点ノミヲ襲フベシ然ラザレバ一
打生還ヲ利セラルベシ斯ル打手ニ對シテハ秘術ヲ盡
シテ全力以テコレニ當ルアルノミ若シ打棒ノ運行左
程ニ速カナラザレバ通例ノ打手ナルカ故ニコレヲ生
捕ノニ差シテ勞スル程ニハアラジ若シ打棒運行遅キニ

過クルモノハ拙劣打手ナルガ故ニ直チニ三振即死セシムベシ其他重要ナル秘密ハ他日將ニ語ルコトアルベシ

投手が自身ノ欲スル方向ニ球ヲ打タシメントスル時
 コノ事モ必ズシモ其欲スル所ニ從フモノニアラザル
 モ大体ニ於テ其目的ヲ達スルヲ得バ充分ナラン今若
 シ第一第二壘ニ走者アリトスレバ吾カ欲スル所ハ第
 三壘ニ打タシムルニアリコノ時ニハ弱キ Out Curve ナ
 打手ニ近ク投ズルヲ可トス熟練ナル打手ナラバ必
 或ニふらむヲ第三壘ノ邊ニ送ラン然ラザレバ S.S. ニ送
 ルベシ若シ又タ單ニ左野ニ打タシメント欲スレバ弱

ク近キ球ヲ投ズベク又タ右野ニ打タシメント欲スレ
 バ強キ遠キ球カ強キ Incurve カ Out Curve ノベトナリ通
 過セズシテ遠キモノヲ投ズルヲ通例トス其他コレヨ
 リ以上ノ程度ノコトハ讀者ノ研究ヲ待チ後ニ語ラン
 以上ハ其大体ニ過キザルモ斯ル注意ヲ以テ投球スル
 所ハ熟練ナル投手トナルコト比較的ニ容易ナラン

Catcher (打手ノ姿
 勢參着)

全軍九人皆敵ニ面セルニ己レ一人敵背ニアリテ常ニ
 熱球ニ浴ス九人中最難ノ所ニシテ亦最險ノ所ナリ職
 ニ此難關ニ當ルノ士ハ豪膽銳眼ニシテ舉止明快兼チ
 テ腕力ニ富ミ而シテ冷靜ナランコトヲ要ス膽斗ノ如

クナラサレハ熱球激シ長棒舞フノ狀ニ萎縮セシ眼光
 秋毫ヲ分ツニアラスンハ盤桓屈折ノ魔球ニ應シ Foul
 球ノ險球ヲ避クル能ハサラン舉止明快ナラズン
 ハ熱球ヲ受ケテ直ケニベ―スニ投スル能ハサラン腕
 カニ富ミ筋肉鍊鉄ノ如クナラスンハ以テ Foul ヲ蔑視
 シ九回ノ苦戰ニ堪ヘサラン頭腦冷靜ナラスンハ此忙
 境ニ立ツテ略ヲ施スニ難カラシムCノ任實ニ重クCノ
 業實ニ壯快ナリト稱スベシ何等ノ快男子カ敢テ進
 テ此難關ニ處セントスルモノゾ老手ノ仕合ニ於テハ
 Pノ任ハCヨリモ更ラニ難シト雖モ初心ノ仕合ニ於
 テハPハ球ヲ投スルノミニテ其責ヲ塞クニ足ルモC

ハ必ラス長棒ノ後ニ熱球ヲ受ケサルベカラス而シ
 テPノ術未熟ナルカ故ニ投球或ハ高ク或ハ低ク左ニ
 右ニ其Cヲ勞セシムル果シテ幾何ゾヤPノ尙ブ所ハ
 略ニシテCノ主トスル所ハ熱誠ト勇氣トニアリ何等
 ノ快男子カ敢テ進ンデ此難關ニ處セントスル者ゾ
 Cノ職ハ恰モ舟人ノ如シ清風軟波千里漾々タリ漁歌
 貪眠猶以テ彼岸ニ達スルヲ得ベク其難シトスル所ハ
 唯暗潮雲ヲ呼ビ烈風白波ヲ漲ラシ帆綱緊張シテ巨櫓
 傾斜スルノ際ニアリ故ニCタル者平常ニアツテハH
 ノ後ニ十五間綱ヲ後ニシテPノ投球ヲ拾フテ是レ
 チ返ヘセバ其事即チ足レリ打手已ニ二度振リチナシ

走者ニハP.C. 共ニ注意スルヲ
 ナリトス而シテ
 所ニアルヲ可
 方三尺以内ノ
 C.ハ打手ノ後
 ナルヲ如クシテ
 者ニ注意セサ
 ルカ如キ態ヲ
 給ヘバ走者ヲ
 給クコト多シ
 (森脇茂)

テ球來ラバ球
 ノ後ヲ追ヒキ
 ナ受ケシトキ
 ハ打手ノ身体
 ニ密接スルカ
 如ク前進スル
 ハ最も安全ニ
 シテ且ツ投球
 ニ便ナリシテ
 踏ミ出シ受ケ
 アルカ如キC.
 アラサレハ其
 勇氣恃ムニ足
 ラス
 (藤野修吉)

若クハ走者ベトスニアルトキ始メテ面ヲ被リ手袋ヲ
 手ニシテ Catching ナナスベキナリ故ニ横濱仕合ノ如
 キ老練ノ仕合ニ於テハ二三回ノ久シキC.ハ一タビモ
 Catching ナ試ミルノ機ナクシテ無聊ニ苦ムノ奇觀ナ
 キニアラス但シ初心ノ仕合ニハ容易ニ敵ヲ殺シ得サ
 ルカ故ニC.ノ苦戦全軍ニ冠タル所以ナリ而シテ其所
 業ニ至リテハP.ノ如ク煩雜ナラス唯P.ノ投球ヲ受ク
 ルコト確實ナレハ已ニ其職責ノ大半ヲ了シ其最困難
 トスル所ハI.B.ニアル走者ノ2.B.ヲ盗ムヲ妨ケンカ爲メ
 ニ2.B.ニ投スルニアリ故ニC.タル者ハP.ト常ニ相練習
 スルニ當リテ受クルト同時ニ投ケ返ヘスコトヲ練習

シ常ニ2.B.ヲ其定位置ニ立タシメテ投球スルヲ練習ス
 ベシ熱球ヲ受クル已ニ容易ナラサルニ復急遽2.B.ノ遠
 キニ投シテ一絲亂レサラントス是レ實ニ難シ故ニ走
 者ノ險ヲ冒シテ必ラス2.B.ヲ盗マントスルヲ知ラハP.
 ト約シ少シク打手ノ前方棒ノ達セサル所ニ投セシメ
 テ走者ヲ殺スモ可ナリ然レトモ若シ敵ニシテ此秘ヲ
 知り或ハ逡巡敢テ2.B.ニ冒險セズンハ却ツテ4 Ballsノ
 醜ヲ演セシ故ニC.タル者ハ其定位置ニアツテ此難局
 ナ處スルノ老熟ナカルベカラス次ハH.ノ守備ニシテ
 H.ハP.トC.トノ共守スル所ナレドモ其專任ヲ求レバ
 即チC.ナリ走者2.B.ニアルニ打手球ヲ打タハC.ハ必ラ

ス普通ノ Base Man ノ姿勢ヲ以テ H.ヲ守ルベシ又 L.F. C.F. 等ノ 3.B.ニ投スルヲ見バ C.ハ直チニ H.ノ守備ヲ P.ニ譲リ走リテ 3.B.ノ後ヘテ擁護スベシ又球ノ C.ニ來レル時走者其ベイスヲ遠ク離レタルヲ見ルモ妄リニベイスニ投スル勿レ其間隙ニ乗シテ球ハ未タ目的ノベイスニ達セサルニ却ツテ次ノベイスヲ盜マレン如斯際ニハ自ラ球ヲ持シ投球ノ姿勢ヲ執リ敵ヲ睥睨シテ是ニ逼リ遂ニ是ヲ挾ムモ可ナリ然レドモ多クハ P.ニ投シテ己ニ代リテ敵ニ逼ラシムルヲ便ナリトス又次ニ留意スベキハ走者 3.B.ト 1.B.トニアリテ 1.B.ノ走者態ト優々然トシテ 2.B.ヲ盜ミテ C.ノ投球ヲ促スコトアリ C.タル

者若シ其術ニ中ツテ 2.B.ニ投セバ必ラス H.ヲ盜マレン一投直チニ 2.B.ニ敵ヲ殺スノ成算アラバ投スルモ或ハ可ナラシ然レトモ 1.B.ノ走者固ヨリ如斯ナ期スルカ故ニ是ヲ殺ス能ハサルニ却ツテ H.ヲ奪ハレン故ニ萬全ノ策ハ投セサルニアリ而シテ敵ノ此狡計ヲ行フニ乗シテ却ツテ我ニ施スベキノ略アリ C.タル者敵ノ如斯ヲ見バ滿身ノ力ヲ擧ケテ 2.B.ニ投スルノ真似シテ常球ヲ P.ニ投セヨ 3.B.ノ走者多クハ欺カレテ機至リ H.已ニ掌中ニアリトシテ熱奔シ來ルヲ見シ是レ已ニ網中ノ魚ナリ P.ソ一投直チニ是ヲ斃サシ

以上論スル所ヲ以テ撰手中最難最要ノ Battery ヲ了レ

リ記事錯雜事實紛淆初學ノ士或ハ是ヲ解スルニ苦マ
 ン然レトモ是レ野球ノ特質誠ニ止ムヲ得サルナリ且
 ツ讀ンテ且ツ行ヒ之ヲ久フセハ自ラ心ニ會スル所ア
 ラン終リニ臨ンデC.ノ職掌中其事鎖細殆ソド常人ノ
 意ニ經セサル所ニシテ勝敗ニ至大ノ影響ヲ有スル一
 注意アリ何ソヤP.ニ返ヘス球是レナリP.ノ職掌中如
 何ナル難球ヲモ謹ンデ落サルニ注意スベキハ已ニ
 云ヘリ而シテP.ニ投スル者ハ亦謹ンテ難球ヲ投セサ
 ルニ注意スベキノ義務アリ殊ニC.ハ常ニP.ニ投球ス
 ルカ故ニ殊ニ此注意ヲ怠ラス常ニ腰以上顔以下ノ球
 ヲ返ヘシP.ヲシテ受ケ方ニ勞シテ爲メニ其機略ヲ鈍

ナラシムベカラス是レ Direct Catching ノ際ニハ容易ナ
 ルモ Bound Catching ノ際ニハ難キカ故ニP.ノ前面一間
 ヨリ三間ノ間ヲ狙フテ稍々強球ヲ投セハ球ハ自ラ躍
 ツテP.ノ掌中ニ入ラン

投手ヨリ捕手ヘノ要求 投手カ投球中投球ニ一
 癖ヲ生ゼシナラバ捕手モコノ癖ヲ直サントメニ其位
 置ヲ多少變更スルヲ要ス即チ球ガ近キニ過クル時ハ
 捕手ハ自身ノ右方ニ少シク進ミテ立ツベシ又々遠キ
 キハ左方ニ進ミテ立ツベシ又々投手ニ球ヲ返スニハ
 充分注意シテ投手ノ尤モ得意トスル所ニ相當ナル強
 サノ球ヲ投ズベシ實ニ投手ノ右指ハ投球ニ大關係ヲ

有スルノミナラズ仕合ノ結果ニモ及ボスヲ多キモノ
ナレバ之レヲ損傷セシメザルヲ期スベシ而シテ其最モ
得意ナル所ニ投ズレバ投手カ球ヲ落スヲナク直チニ
次ノ運動ニ移ツルニ自由ナルヲ以テナリ走者アル時
ハ勿論1.B.及ビ3.B.ニ走者アリテ其一人ヲ捕ヘント欲ス
ル時ナドニハ一層ノ注意ヲ要スベキナリ忘レテモ投
手返スニ球ヲ地ニ轉スベカラズ萬一ノ過失身方ニ大
損失ヲ招クコトアルヲ以テナリ

内野手

内野手ト稱スルハ S.S. 1.B. 2.B. 及ヒ 3.B.ノ四人ナレドモ P.モ

其位置ヨリシテ自ラ此裡ノ一員ナリ内 1.B. 2.B. 3.B.ハ *Base*
*Man*ナル特種ノ職責ヲ有シ其ノ *Fielding*ヨリ云ヘバ
S.S. 2.B. 3.B.ハ殆ト相同シク 1.B.ハ別ニ一派ヲナセリ今初メ
ニ是ガ總論ヲ述ベテ後各論ニ入ラントス
已ニ述ベシカ如何ナル P.ト雖モ全ク敵ニ打タシ
メサルコト能ハサルカ故ニ内野ハ敵ヲ包圍スルノ第
一線ナリ四人ノ者相熟シ相助ケテ其圍ミ宜シク鉄桶
ノ如クナルベシ *Battery*ニ要スル所ハ氣ト略トナレト
モ其略ヤ率子一定ノモノニシテ且ツ熟考ノ餘裕ヲ存
ス内野ニ至ツテハ其要スル所ハ機敏ト果決ト斷行ト
ニシテ思考ノ隙アルコトナシ長棒一揮熱球地ヲ蹴テ

來奔ス其打ツヤ吾ノ豫期セル所ニアラス其來ルヤ吾ノ備ヘタル所ニアラス倉皇急遽漸ク球ヲ受クレバ打手ハ長脚ニ任シテ1.B.ニ達セントシ走者ハ機至レリトシテ次ノベースニ赴カントス1.B.ニ投センカ次ノベースハ敵ノ蹂躪ニ任セサルベカラス走者ヲ監センカ其生捕必ラスシモ期スベカラス逡巡セハ機去リ事終リ萬衆ノ嗤笑ヲ招カシ内野手ノ難キハ其爲スベキ所ヲ知ラサルニアラスシテ却ツテ多ク是ヲ知リテ其就擇ニ迷フニアリ1.B.ニ敵ヲ殺シ猶ホ且ツ3.B.ニ走者ヲ捕ヘントシテ急遽忽卒トシテ球ヲ投スレハ高キニ失セサレハ横ニ飛ヒ1.B.ニ功ヲ奏セサルノミナラスH.ヲモ敵

ニ獻セントス二兎ヲ逐フ者ハ一兎ヲ獲ス而シテ猶且ツ二兎ヲ獲サルベカラス内野手ノ難キハ斷ノ難キニアラス應變ノ略機敏ノ運動以テ二兎ヲ箝制スルノ難キニアリ故ニ任ニ此職ニ當ル者ハ其天授ニ加フルニ多年ノ練磨ヲ經サルベカラス野球ノ特性タル急遽不意機敏斷行等其佳境ハ悉ク内野ニ属ス以テ名ヲナスベク以テ耻ヲ暴ラスベシ常ニ走者ノ所在ヲ念頭ニ存シ從ツテ生スベキ全軍ノ變化ヲ思考シ事生セバ直チニ行フベシ故ニ内野手ノ熟達スベキハ必ズトニシテ投球正確ナルハ固ヨリ必ズ拾フテ直チニ目標ニ投シ其間髪ヲ容レサルノ熟練ヲ要ス今先ツS.S.

ヨリ論セシ

Short Stop (勢参ノ姿)

全軍ノ花役者内野ノ遊軍其地ヤ最モ球ノ來ル所ニシテ最モ功ヲ爲シ易キ所ニアリベ―すヲ守ルノ煩累ナク出入進退唯吾ノ欲スル所遊撃援助唯時ノ宜シキニ隨フ其任ヤ華美ナルカ如クニシテ實ハ難シ熱球砂ヲ蹴テ狂奔シ來ルモ此處ニアリ風ヲ起シ電光ヲ欺テ低飛シ來ルモ亦此處ニアリ況ンヤ走者2.B.ト3.B.トニアルニ當ツテ内野ノ防禦ノ懸ル所ハS.S.ノ双肩ニアリ敵軍多クハ右野ヲ襲ヒ2.B.常ニR.S.ニ轉戦セハ2.B.ノ防禦ハ實ニS.S.ノ任ナリC.3.B.ニ投ス其後ヘチ擁スルモ亦S.S.ノ任



ヲ窺ヲ動撃ノP.テリヤニI.B.者走

ナリ走者挾マル其何ノ處ナルヲ問ハス第二陣ニ進ム
ベキハ S.S. ノ任ナリ走者アルニ 3.B. 飛球ヲ狙フテ其ベ
すチ空フセバ代ツテ守ルベキハ S.S. ノ任ナリ敵ノ打手
強猛ナリ飛球遠ク L.F. チ軼ギ L.F. 其後ヘニ走ル中途ニ迎
ヘテ其投球ヲ受繼テ速カニ P. ニ返シテ走者ノ專盜ヲ
制スルハ S.S. ノ任ナリ一變生スル毎ニ關セサルハナク
一球來ル毎ニ奔走セサルハナシ殊ニ 2.B. トハ其ベ
チ共有シ 1.B. トハ Battery ニ於ケルカ如ク其關係密ナリ
機敏捷給ニシテぶろニ熟シ投球ニ巧ミナルノ士ニア
ラサレハ能ハサルナリ

First Base

是レ敵ヲ扼スルノ第一關内野手ノ功名多クハI.B.ト相
俟ツテ始メテ完結ス宜シク死屍累々タルベキノ處ナ
リ其職責ハ身軀ノ一部ヲI.B.ニ接シテガテ四方ヨリ投
スル球ヲ受ケ兼テ内野ノ右端ノ守備ニ任スルニア

第八圖



First Base 飛べる圖

リ内野手ノ必ズテ拾ヒテI.B.ニ投スルヤ率子滿身ノ力
ヲ振ヒ猛烈無比ナルニ急劇ノ際時ニ正鶴ヲ失シ或ハ

高ク或ハ低ク右ニ逸シ左ニ外レ各種ノ難球一ニI.B.ニ
集ル而シテ手ノ及ブ限リハI.B.タル者其ベイスヲ離ル
ベカラス球ニ應シテ前進後退巧ミニ球ヲ任意ノ點ニ
反譯スルハI.B.ニ許サル、所ナリ慎重ニシテ受け方ニ
老熟セルノ人ニアラサレハ能ハサルナリ其業ヤ多ク
ハ自働ニアラスシテ受働ナルハC.ニ類スレドモ身軀
ヲ適宜ノ地ニ動カス能ハサルハ實ニC.ニ比スレバ此
職ノ最大難點ニシテ身軀ノ姿勢各種ノ心得自ラ他ニ
異ル者アリ今其大要ヲ述ン
未タ走者アラサル時ノI.B.ノ定位置ハベイスヲ距ルコ
ト右ニ數歩内野線ノ後方三四歩ノ所ニアリ若シ球ノ